

NEWS LETTER

No.



2006
MARCH

リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

創立50周年記念企画(1)

JCR2006 長崎大会特集号

第50回 (中)日本リウマチ学会総会・学術集会
第15回 国際リウマチシンポジウム



有限責任中間法人

日本リウマチ学会



非ステロイド性消炎・鎮痛剤

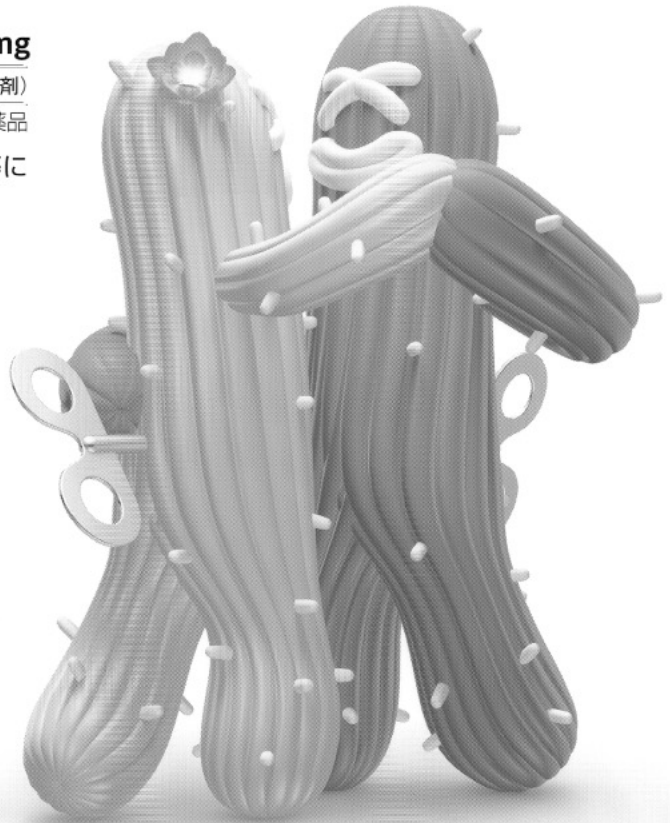
薬価基準収載

モービック®錠 5mg・10mg

Mobic® Tablets 5mg・10mg (メロキシカム製剤)

劇薬/指定医薬品

※効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等については添付文書等をご参照ください。



販売元

いのち、ふくらまそう。



第一製薬株式会社



Daiichi-Sankyo
GROUP

資料請求先

〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

ホームページアドレス

<http://www.daiichipharm.co.jp/>

製造販売元



Boehringer
Ingelheim

日本ベーリンガーインゲルハム株式会社
東京都千代田区猿樂町2丁目8番8号

127×180 7/06

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

MMP-3

関節滑膜の活動性把握に血清又は血漿MMP-3

血清又は血漿
MMP-3

関節滑膜の増殖

X線写真
骨の破壊

リウマトイド因子
抗ガラクトース欠損IgG抗体等

免疫学的異常

CRP、赤沈等
全身の炎症

健保適用

パナクリア® MMP-3 「ラテックス」

血清又は血漿中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



第一化学薬品株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造販売元



第一ファインケミカル株式会社



江口 勝美

第50回 (中) 日本リウマチ学会総会・学術集会
第15回 国際リウマチシンポジウム
会 長

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会
第15回国際リウマチシンポジウム開催に当たって

リウマチ学の半世紀を鑑み、リウマチの治癒を目指す
〜蘭学発祥の地から世界へ〜

2006年4月23日(日)～26日(水)の4日間、長崎ブリックホールを主会場として、第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会及び第15回国際リウマチシンポジウムを開催いたします。

(中)日本リウマチ学会は、1957年、三沢敬義先生が東京で第1回本学会を開催されて以来、50周年という節目を迎えることになります。

リウマチ治療は、生物学的製剤、特にTNF阻害薬が導入され、将に大変革の時を迎えています。本治療法は、関節炎や日常生活動作障害を改善させるだけでなく、関節破壊の進行を阻止、あるいは破壊関節を修復することができます。また、TNF阻害薬の早期RA患者への投与は関節破壊の進行を阻止するだけでなく、RAを寛解へ導くことを可能にし、治癒を目指すことも夢ではなくなりつつあります。

これらの理由から、本学会のテーマは「リウマチ学の半世紀を鑑み、リウマチの治癒を目指す～蘭学発祥の地から世界へ～」とさせていただきます。

本学会は、発足して以来、半世紀を経過し、本学会の発展には多くの先人の汗と涙の労苦があったと思います。この理由から、本学術集会は4つの特別企画を造りました。その1つであるフィーチャードディスカッションでは、これまでリウマチ学を牽引してこられました著名な先生方に「半世紀の成果、今後の展望、将来への期待」について、熱く語っていただき、若手リウマチ医を奮起させていただくと同時に、これからのリウマチ学の進む道標を示してもらいたいと願っています。

リウマチ治療における大変革の時期において、リウマチ診療をより一層前進させるためには、「リウマチ専門医」の育成が最も重要な課題と認識しています。本学術集会にはこれを叶えるために、アニュアルコースレクチャー(7題)を学術集会前日(23日)に企画しています。リウマチ診療の最前線における知識を吸収することができるかと期待しています。尚、内容を理解しやすくするために、シラバスを作成し、配布することになっています。

また、本学術集会は、国際リウマチシンポジウムを併行して開催します。リウマチ学の最新の話題、5つの国際シンポジウム(31題)を企画しています。シンポジストには、世界的超一流の研究者を招待し、講演をしていただくことにしています。

本学術集会は、国内シンポジウム12テーマ(74題)、プレナリー(8題)、ワークショップ100テーマ(666題)、ポスター(407題)で、総演題数は1155題となりました。会員の皆様のお陰で過去最高の演題数となりました。

長崎は、江戸時代から西洋文明の窓口として多くの偉人が往来し、医学を始め出島を通じて広く全国に西洋文化が流布しました。西洋医学の窓口であった長崎の地で、半世紀のリウマチ学の歩みを知ると同時に、21世紀のリウマチ学の進む道を考えてみては如何でしょうか? 私共、先生方に稔りの多い有意義な学会にするために、最大限の努力をさせていただきます。多くの先生方に本学会へご参加いただけるのを心待ちにしております。

NAGASAKI



JCR2006

The 50th Annual General Assembly and Scientific Meeting
of Japan College of Rheumatology(JCR)
The 15th International Rheumatology Symposium

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会 第15回国際リウマチシンポジウム

開催概要

会 期：2006年4月23日(日)～26日(水)

会 場：長崎ブリックホール、長崎新聞文化ホール、NCC & スタジオ、ウェルシティ長崎、
長崎県医師会館、ベストウェスタンプレミアホテル長崎(旧長崎プリンスホテル)

会 長：江口勝美 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座(第一内科)

学術プログラム

(3月2日現在)

<指定演題>

国際シンポジウム……31
シンポジウム……74

合 計 105

<一般演題>

プレナリー…… 8
ワークショップ…… 666 (内 国際スカラーシップ23演題)
ポスター……407

合 計 1081

<共催セミナー>

モーニング…… 1
ランチョン……29
イブニング……10

合 計 40

総合計 1226

JCR2006事務局

学術集会事務局

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会事務局長
 川上 純
 事務局
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・制御学講座(第一内科)
 〒852-8501 長崎市坂本1-7-1
 TEL: 095-849-7260 FAX: 095-849-7270 E-mail: jcr50@ml.nagasaki-u.ac.jp



運営事務局

株式会社コングレ九州支社内
 〒810-0001 福岡市中央区天神1-9-17 ダヴィンチ福岡天神ビル5F
 TEL: 092-716-7116 FAX: 092-716-7143 E-mail: jcr2006@congre.co.jp

参加者へのお知らせ

1. ご参加の皆様へ

- 1) 総合受付は長崎ブリックホール1階で行います。

受付時間

4月23日(日)~4月25日(火) 7:30~17:00
 4月26日(水) 7:30~15:00

受付内容

総合案内、参加登録受付、新入会受付、抄録集販売、各専門医療制度研修単位の取得手続

①参加費

アニュアルコースレクチャー	5,000円
学会参加費	15,000円
コメディカル	3,000円
医学部学生	3,000円
会員懇親会(事前登録有)	3,000円

②抄録集販売

日本語版	3,000円
英語版	3,000円

(Modern Rheumatology Supplement)

※学会員には英語・日本語版とも事前に発送いたします。
 ※当日参加登録された方には、プログラム(抄録本文記載なし)を無料で配布します。
 ※アニュアルコースレクチャーと国際リウマチシンポジウム用のシラバスは学会会場で配布致します。

- 2) 総会本部は長崎ブリックホール 3階 会議室2です。
 学会会期中(4/23-26)連絡先
 TEL: 095-841-7660 FAX: 095-841-7684
- 3) 会場内は必ずネームカードをご着用下さい。
 本学会では各会議場入口でネームカードをチェックし、ネームカードのない方の入場はお断り致します。ご協力をお願い致します。
- 4) 第15回国際リウマチシンポジウムにも第50回日本リウマチ学会総会・学術集会のネームカードで参加できます。
- 5) 学会員の方は事前にお送りする抄録集をご持参下さい。
- 6) (中)日本リウマチ学会に入会される方は、総合受付にて手続きをして下さい。なお、学会場では年会費の受付は行いません。

2. 専門医制度単位の取得について（詳細は会場でご確認下さい。）

1) 本学術集会において取得できる研修単位は次のとおりです。

- ①日本リウマチ学会・専門医 学術集会出席：7単位、発表（筆頭）：5単位
国際リウマチシンポジウム出席：5単位
アニュアルコースレクチャー出席：5単位
※下記②の単位も適用されます。

②日本リウマチ財団・登録医

◆各講演受講で取得可能な単位数は下記の通りです。

国際リウマチシンポジウム 1－5	各2単位
アニュアルコースレクチャー（23日） 1－7	各1単位
モーニングセミナー（24日）	1単位
ランチョンセミナー	各1単位（1日1単位）
イブニングセミナー（24日、25日）	各2単位

◆各日で取得可能な単位数は下記の通りです。

4月23日	8単位
4月24日	8単位
4月25日	7単位
4月26日	3単位

③日本整形外科学会・整形外科専門医＝下記の講演受講ごとに1単位取得できます。

（但し、1日あたり最大4単位、学会期間中最大6単位までです。）

- ・アニュアルコースレクチャー：AL-1, 2, 3, 6
- ・ランチョンセミナー：L-3, 5, 6, 8, 15, 16, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25
- ・イブニングセミナー：E-1～3

④日本内科学会・認定内科専門医＝学術集会出席5単位（要ネームカード）

⑤日本皮膚科学会・認定皮膚科専門医＝学術集会出席6単位

⑥日本アレルギー学会・認定医・専門医・指導医＝学術集会出席4単位（*要ネームカード）

筆頭発表3単位（*要抄録該当箇所）*いずれもコピー可

⑦日本小児科学会・認定医＝学術集会出席5単位

⑧日本医師会障害者教育講座＝学術集会出席3単位（要ネームカード）

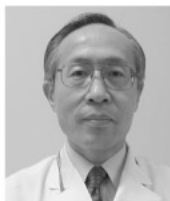
2) 日本リウマチ学会専門医の方は、専門医（認定医）手帳をお持ち下さい。総合受付で資格維持単位取得証明の捺印を行います。

3) 日本リウマチ財団教育研修単位（日本リウマチ学会専門医にも適用されます）は、総合受付で1単位につき、1,000円をお支払いの上、財団の教育研修単位取得証明書をお受け取り下さい。

4) 日本整形外科学会教育研修単位を取得ご希望の方は、総合受付で1題につき、1,000円をお支払いの上、日整会教育研修講演受講証明書をお受け取り下さい。（1日4単位まで、学会期間中最大6単位までです。）

第50回日本リウマチ学会総会・学術集会組織委員会

プログラム委員会



宮坂 信之
東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
膠原病・リウマチ内科学分野



田中 良哉
産業医科大学
医学部第一内科学



高柳 広
東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
分子情報伝達学



石黒 直樹
名古屋大学大学院
医学系研究科整形外科



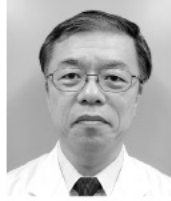
猪熊 茂子
東京都立駒込病院
アレルギー膠原病科



岩本 幸英
九州大学大学院医学研究院
整形外科学



加藤 智啓
聖マリアンナ医科大学
難病治療研究センター
生態機能・プロテオーム制御部門



川合 眞一
東邦大学医療センター大森病院
膠原病科



小池 隆夫
北海道大学大学院
医学研究科病態内科学講座・
第二内科



小安 重夫
慶応義塾大学
医学部微生物学・免疫学



近藤 啓文
北里大学
医学部膠原病感染内科学



佐藤 伸一
長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科
病態解析・制御学



佐野 統
兵庫医科大学
内科学



進藤 裕幸
長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科
発生分化・機能再建学



住田 孝之
筑波大学大学院
人間総合科学研究科
臨床免疫学分野



武井 修治
鹿児島大学
医学部保健学科



竹内 勤
埼玉医科大学総合医療センター
リウマチ・膠原病内科



中村 耕三
東京大学大学院
医学系研究科
感覚・運動機能医学



中村 利孝
産業医科大学
医学部整形外科



能勢 眞人
愛媛大学
医学部ゲノム病理学分野



三森 経世
京都大学大学院
医学研究科内科学講座



山本 一彦
東京大学大学院
医学系研究科
生体防御腫瘍内科学



吉川 秀樹
大阪大学大学院
医学系研究科
器官制御外科学



齋藤 修
日本大学
医学部整形外科

アニュアルコースレクチャー抄録

日時 4月23日(日) 8:00~16:30

会場 長崎ブリックホール 2階大ホール(第一会場)



早期リウマチの診断と関節破壊の予知 Diagnosis of early RA and prediction of articular destruction

江口 勝美 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座(第一内科) 教授)

関節リウマチ治療はTNF α 阻害薬が導入され、将に大変革の時を迎えている。

TNF α 阻害薬は関節炎や日常生活動作を改善するだけでなく、関節破壊の進行を阻止あるいは破壊された関節を修復できる。一方、TNF α 阻害薬は日和見感染を含めて重篤な副作用を来すことがあり、また薬価が高額であるなどの短所を

持ち合わせている。

以上のことから、RA治療にあたっては費用対効果、効果対有害事象を十分に考慮して薬剤を投与しなければならない。

進行したRA患者にTNF α 阻害薬を含めて積極的に治療しても寛解導入は20%にも達しないが、関節炎発症早期から積極的に治療すると40~50%の患者に寛解を導入することが明らかになってきた。この様な観点から、RAを早期に診断する、あるいは関節破壊の進行を予知し、個々のRA患者に適った治療、すなわちオーダーメイド治療が求められ、これが現在日本で求められている医療費削減に適うものと期待される。

RAの診断はACR1987年改訂分類基準を用いて実施される。しかし、本分類基準は早期RAでは感度が40~60%で早期診断には不適である。このような視点から、世界的に早期にRAを診断し、臨床経過(持続性vs自然寛解関節炎、持続性vs破壊性関節炎)を予知する機運が高まっている。

本講演では、私たちの早期診断基準案を提案し、関節破壊の予知因子について述べたい。



生物学的製剤に関する最近の知見 Current topics of biologics

竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科 教授)

TNFを標的とする3剤の生物学的製剤は、進行期RAから早期RAを対象とした成績が相次いで明らかにされ、いずれの試験においても、発症早期例でより高い臨床的有効性が明らかにされている。これを受けて、従来から薬効評価のスタンダードであったACR20を満足するだけでなく、より高い指標であるACR50、ACR70やDAS寛解が治療目標とされ、臨床的寛解が現実的なものとなってきた。一方、関節破壊の抑制に関しては、関節破壊が急速に進行する早期RAに対しても、これら製剤の強力な抑制効果が明らかとなったばかりか、場合によっては関節破壊の修復まで期待される成績が示されている。画像的寛解を治療目標に設定しようとする考え方が提唱されている。

安全性に関しては、世界にも類を見ない市販後全例調査が我が国で行われ、インフリキシマブは2005年7月末、4000例を超える症例の6ヶ月間のデータから副作用発現パターンが明らかとなった。また、エタネルセプトの市販後全例調査も進行中であり、両製剤の安全面における概要が2006年度中には判明する。

第2世代ともいえるべき生物学的製剤、ヒト化型抗IL6受容体抗体トシリツマブ、キメラ型抗CD20抗体リツキシマブ、CTLA4-Ig融合蛋白アバタセプトについて、DMARD抵抗例、MTX抵抗例、TNF阻害薬抵抗例を対象とした成績を中心に、最新の情報をレビューしたい。TNF阻害薬との相違点にも触れ、これら生物学的製剤の適応、位置づけ、課題について議論する。



RAと鑑別を要するリウマチ性疾患 ~GREAT RA MASQUERADERS~ Intractable conditions in collagen diseases

高杉 潔 (道後温泉病院)

成人において多関節罹患を示す慢性関節炎といえば、先ず関節リウマチ(RA)を誰しも想起するはずである。その罹患頻度がずば抜けて高く、寛解・治癒にいたるものがきわめて限られているからに他ならないが、その診断根拠の最大の特徴を挙げれば、「左右対称性の多発する関節炎」ということになるであろう。しかし、この病気に対する現存の診断基準は決して100%確実なものではないので、この罹患パターンを呈してくる他の諸々の疾患との鑑別が日常のRA診療の場において、常に問題となるところである。

RAにきわめて類似した関節罹患像を示す疾患としては変形性関節炎、強皮症・全身性エリテマトーデス・MCTDなどの膠原病、乾癬性関節炎、慢性型の痛風、偽痛風、ウイルス感染症、ヘモクロマトーシスなどが直ちに想起されてくるが、演者の限られた臨床経験のなかで、これまでに遭遇した幾つかの印象深いこれらの"Great RA Masqueraders"の具体例を提示して、鑑別のポイントなどに触れていきたいと考えている。



膠原病の難治性病態

Imaging in rheumatic diseases

猪熊 茂子 (東京都立駒込病院 アレルギー膠原病科 部長)

膠原病の罹患症例数は100~200万人に及ぶと想定され、最早希少な疾病ではなくなって久しい。膠原病は①慢性 ②炎症性 ③多臓器侵襲 ④免疫異常 を特徴とする一連の疾病群であるが、生命予後を脅かすこともあり、不可逆性の臓器不全を残すこともある。

難治性病態とされるものには、i) 重要臓器障害、ii) 不可逆性進行性臓器障害、iii) 急性・劇症型病態、iv) 診断・治療法が確立していない病態、など原病自体によるものが挙げられるが、更にv) 合併症が加わる。合併症の中の難治性病態は、アミロイドーシス、感染症、薬剤障害が含まれる。

これらのなかで、現在一定の頻度を見、且つ生命予後に関わり得るものとしては、肺高血圧症(PH)、間質性肺炎(特に筋炎所見に乏しい皮膚筋炎合併: amyDM-IP)、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、劇症型抗リン脂質抗体症候群(cAPS)、血球貪食症候群(HPS)、日和見感染症、抗リウマチ薬(DMARD)による肺障害と血球減少などがある。ループス腎炎、全身性硬化症によるrenal crisis、脳症、指尖壊死、骨粗鬆症などは前者に続くものと言える。特に医原性因子を背景とする病態は可能な限り避けねばならない。

これらについては、近年知見の集積と、一部新しい治療薬、治療法の導入が見られるので、提出する。



リウマチ性疾患の画像診断

Imaging in rheumatic diseases

勝呂 徹 (東邦大学医学部 整形外科 教授)

リウマチ性疾患の診断は、臨床的経験と検査所見や診断基準にてなされているが、骨・関節の病変の進行の客観的評価が必要である。すなわち関節局所の正確な診断によって薬物療法や手術療法の選択をすることが、予後決定因子にもなる。臨床的評価には、関節局所の腫れや運動時痛として表現される。客観的評価としては、エックス線、CT、MRIなどがある。臨床的に最も役立つ客観的評価法は、単純エックス線である。画像診断上の重要読影ポイントは、しかるべき評価法を適切に用いることが肝要である。早期診断は効率性から考えて臨床診断を優先すべきである。病期の進行の評価には、Steinbrocker法、Larsen法、Sharp法などが用いられている。この他手根骨の評価法に、Carpal height indexやUlnar deviationの測定法があり、基本読影法の習熟が必要である。評価のポイントは、最も進行した部位を以て進行の程度とする。読影の要点は、関節近傍の骨粗鬆症、骨・軟骨破壊、関節変形、強直を正確に捉えることである。関節リウマチの早期病変評価を日常診療で用いる習慣をつけることが重要である。



リウマチ性脊椎疾患の診断と治療

Diagnosis and therapy of rheumatic spinal diseases

米延 策雄 (独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター)

腰痛あるいは頸部痛は極めて頻度の高い症状で、いわゆる有訴者率の第1位と第2位を占める。これらを来す疾患を臨床的に明確に診断することは必ずしも容易ではない。このため、腰痛に限れば、その発生病態を明確にできないものを「非特異性腰痛」として認識し治療を行う。逆に、腰痛を特異的に生じさせる疾患は的確に診断する必要がある。リウマチ性脊椎疾患は、頻度は高くないが、的確に診断しておかなければならない疾患の一つである。その中にはseronegative spondyloarthropathyと総称される一群の疾患がある。この名が示すようにスクリーニング的な血液検査では明確にし難いことがある。むしろ、症状や経過にその特徴があり、これが診断の糸口となることが少なくない。また、関節リウマチにおいて脊椎病変は頻度の高い病変である。従って、ここではこれらの疾患の臨床的特徴を始めとして、診断について解説し、治療もこれらに特異的なものがあり、その治療についても言及する。



小児期のリウマチ性疾患の診断・治療の進歩 ~診断のガイドラインと生物学的製剤の適応~

Recent advance of diagnosis and therapy for rheumatic diseases in childhood

横田 俊平 (横浜市立大学大学院医学研究科 発生成育小児医療学 教授)

小児期の慢性関節炎のうち原因不明のものを「若年性特発性関節炎」と呼ぶ。大きく全身型と関節型に二分するが、前者は弛張熱、発疹、関節炎、肝脾腫など全身症状を呈し、最近IL-6/IL-6Rの過剰状態が病態を形成していることが判明した。また関節型は血清学的にリウマチ因子陽性型、抗核抗体陽性型、血清因子陰性型の亜型があり、臨床経過からは多関節型、少関節型がある。全身型はIL-6/IL-6Rの調節異常に由来することから、わが国で開発されたTocilizumabを適用したところ諸症状の消退、検査値の改善が短期間のうちに図られることから、新しい治療方式が完成しつつある。一方、関節型はメトトレキサート少量パルス療法+少量ステロイド+NSAID三者療法により約70%が長期改善に至り、残り30%についてEnbrel、Remicade、Tocilizumabが効果を示す。生物学的製剤の開発により段階的治療方式が完成しつつある。

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチ

前日 4月23日(日)

施設名	会場	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
長崎ブリックホール	第1会場 (2階 大ホール)	アニアルコースレクチャー1 早期関節リウマチの診断と関節破壊の予知 座長：小池 隆夫 演者：江口 勝美	アニアルコースレクチャー2 生物学的製剤に関する最近の知見 座長：山本 一彦 演者：竹内 勤	アニアルコースレクチャー3 RAと鑑別を要するリウマチ性疾患 座長：尾崎 承一 演者：高杉 潔	アニアルコースレクチャー4 膠原病の難治性病態 座長：住田 孝之 演者：猪熊 茂子		
	第2会場 (3階 国際会議場)						ランチョンセミナー1 関節リウマチに対する白血球除去療法-効果と治療選択- 関節リウマチに対する白血球除去療法-整形外科医の立場より- 座長：佐川 昭 演者：日高 利彦、富田 哲也
	第3会場 (2階 リハーサル室)						ランチョンセミナー2 薬剤性肺障害の診断 関節リウマチと間質性肺病変 座長：山田 昭夫 演者：中島 正光、當間 重人
長崎新聞文化ホール	第4会場 (2階 翔鶴の間)						ランチョンセミナー3 RA 薬物治療における戦略的NSAID 投与法 座長：村澤 章 演者：山中 寿
	第5会場 (3階 真珠の間)						ランチョンセミナー4 シェーグレン症候群と抗セントロメア抗体 座長：吉田 俊治 演者：川野 充弘
	第6会場 (3階 珊瑚の間)						
文化放送 長崎	第7会場 (2階 NCC&スタジオ)						ランチョンセミナー5 MTX は関節リウマチ治療の基本です 座長：龍 順之助 演者：田中 良哉
ホーリック 長崎	会議室4・5 (3階)						

会員懇親会 19:00~21:00 会場：グラバー園

ポスターセッション一覧

4月24(月) 討論 17:00~18:00

会場名	セッション名
A会場 (1階 ホワイエ)	P01 リウマチ性疾患のQOLなど
	P02 手術療法 (1)
B会場 (2階 ホワイエ)	P03 変形性関節症など
	P04 生物学的製剤 (1)
	P05 生物学的製剤 (2)
	P06 生物学的製剤 (3)
	P07 SLE (1)
	P08 SLE (2)
C会場 (3階 ホワイエ)	P09 筋炎/強皮症 (1)
	P10 シェーグレン症候群など
	P11 自己抗体など (1)
D会場 (2階 ギャラリー)	P12 症例報告：関節リウマチ (1)
	P13 症例報告：関節リウマチ (2)
	P14 症例報告：関節リウマチ (3)
	P15 症例報告：関節リウマチ (4)
E会場 (2階 練習室1)	P16 関節リウマチの病態 (1)
	P17 関節リウマチの病態 (2)
	P18 関節リウマチの病態 (3)
F会場 (2階 練習室2)	P19 関節リウマチの治療 (1)
	P20 関節リウマチの経過と予後

4月25(火) 討論 17:00~18:00

会場名	セッション名
A会場 (1階ホワイエ)	P21
	P22
	P23
B会場 (2階 ホワイエ)	P24
	P25
	P26
	P27
	P28
	P29
C会場 (3階 ホワイエ)	P30
	P31
	P32
D会場 (2階 ギャラリー)	P33
	P34
	P35
	P36
E会場 (2階 練習室1)	P37
	P38
F会場 (2階 練習室2)	P39
	P40

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
		アニュアルコースレクチャー5 リウマチ性疾患の画像診断 座長：宗園 聰 演者：勝呂 徹		アニュアルコースレクチャー6 リウマチ性脊椎疾患の診断 と治療 座長：豊島 良太 演者：米延 策雄		アニュアルコースレクチャー7 小児期のリウマチ性疾患の診断・治療の進歩 ～診断のガイドラインと生化学的検査の進歩～ 座長：伊藤 保彦 演者：横田 俊平									
						評議員会									
		コメディカル合同シンポジウム													
理事会															

:00

セッション名
その他 (1)
その他 (2)
その他 (3)
関節リウマチの治療 (2)
関節リウマチの臨床 (1)
関節リウマチの臨床 (2)
SLE (3)
骨粗鬆症 (1)
骨粗鬆症 (2)
その他 (4)
その他 (5)
症例報告：血清反応陰性脊椎関節症など
症例報告：日和見感染症
症例報告：成人発症Still病
症例報告：ベーチェット病
その他 (6)
自己免疫疾患の病因・病態
遺伝子解析とシグナル伝達 (1)
肺病変/血管炎症候群 (1)
血管炎症候群 (2)

4月26(水) 討論 13:00～14:00

会場名	セッション名
A会場 (1階ホワイエ)	P41 強皮症 (2)
	P42 遺伝子解析とシグナル伝達 (2)
	P43 自己抗体など (2)
B会場 (2階 ホワイエ)	P44 手術療法 (2)
	P45 症例報告：SLE (1)
	P46 症例報告：SLE (2)
	P47 症例報告：SLE (3)
	P48 症例報告：SLE (4)
	P49 症例報告：SLE (5)
C会場 (3階 ホワイエ)	P50 症例報告：血管炎 (1)
	P51 症例報告：血管炎 (2)
	P52 症例報告：血管炎 (3)
D会場 (2階 ギャラリー)	P53 症例報告：強皮症
	P54 症例報告：シェーグレン症候群
	P55 症例報告：ウェゲナー肉芽腫
	P56 症例報告：その他
E会場 (2階 練習室1)	P57 症例報告：関節外科 (1)
	P58 症例報告：関節外科 (2)
F会場 (2階 練習室2)	P59 症例報告：筋炎 (1)
	P60 症例報告：筋炎 (2)

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチ

1日目 4月24日(月)

施設名	会場	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
長崎ブリックホール	第1会場 (2階 大ホール)		開会の辞	S01 シンポジウム1 全身性エリテマトーデス：発症の分子機序と新たな治療法 座長：小池 隆夫、長澤 浩平			
	第2会場 (3階 国際会議場)	モーニングセミナー1 シェーグレン症候群に対する塩酸セビメリン長期投与の有用性 座長：菅井 進 演者：長岡 章平	IS1 国際シンポジウム1 Surgery in Rheumatoid Arthritis: Present Status and Future Perspective 座長：Yukihide Iwamoto, Ryota Teshima	10:15		ランチョンセミナー6 Optimizing RA Treatment and Outcomes-what tools do we have?-. 座長：山本 一彦 演者：Ferdinand Breedveld	
	第3会場 (2階 リハーサル室)		W001 ワークショップ1 関節リウマチの病態解析(1) 座長：吉川 秀樹、沢田 哲治	W002 ワークショップ2 関節リウマチの病態解析(2) 座長：堤 明人、加藤 智啓		ランチョンセミナー7 リウマチ診療は総合診療 座長：高杉 潔 演者：後藤 眞	
長崎新聞文化ホール	第4会場 (2階 翔鶴の間)		W005 ワークショップ5 関節リウマチの治療：エタネルセプト(1) 座長：三村 俊英、針谷 正祥	W006 ワークショップ6 関節リウマチの治療：エタネルセプト(2) 座長：松野 博明、小山 芳伸		ランチョンセミナー8 高齢者の腰下肢痛-診断のポイントとプライマリケア 座長：永田 見生 演者：高橋 啓介	
	第5会場 (3階 真珠の間)		W009 ワークショップ9 リウマチ性疾患のQOL・リハビリテーション・医療体制・病診連携(1) 座長：近藤 正一、神宮司誠也	W010 ワークショップ10 リウマチ性疾患のQOL・リハビリテーション・医療体制・病診連携(2) 座長：村澤 章、上好 昭孝		ランチョンセミナー9 薬剤性胃粘膜障害の最新の対処法 座長：川合 眞一 演者：吉川 敬一	
	第6会場 (3階 珊瑚の間)		W013 ワークショップ13 動物モデルでの関節炎の解析(1) 座長：三宅 幸子、藤井 隆夫	W014 ワークショップ14 動物モデルでの関節炎の解析(2) 座長：岩倉洋一郎、南木 敏宏			
文化放送 長崎	第7会場 (2階 NCC&スタジオ)		IS3 国際シンポジウム3 自己抗体の特異性と多様性 座長：三森 経世、高崎 芳成			ランチョンセミナー10 Remission induction with anti-TNF α in early aggressive rheumatoid arthritis 座長：野野 庄吾 演者：Mark A Quinn	
ウェルシティ長崎	第8会場 (2階 西海の間)		W017 ワークショップ17 関節リウマチの治療：インフリキシマブ(1) 座長：赤星 透、小池 竜司	W018 ワークショップ18 関節リウマチの治療：インフリキシマブ(2) 座長：山名 征三、齋藤 和義		ランチョンセミナー11 関節リウマチの病態に対する物と標 -リウマチ病、薬理治療、免疫調節薬の応用- 座長：近藤 啓文 演者：山田 秀裕	
	第9会場 (4階 アンジェラスの間)		W021 ワークショップ21 変形性関節症 座長：大塚 隆信、福田 寛二	W022 ワークショップ22 関節リウマチの頸椎病変／関節リウマチの脊椎病変 座長：戸山 芳昭、齋藤 知行		ランチョンセミナー12 アミロイドーシス治療の新しい展開 -SAA の治療への応用- 座長：養田 清次 演者：寺井 千尋	
	第10会場 (4階 出島の間)		W025 ワークショップ25 二次性アミロイドーシス(1) 座長：高杉 潔、右田 清志	W026 ワークショップ26 二次性アミロイドーシス(2) 座長：奥田 恭章、中村 正		ランチョンセミナー13 変形性膝関節症治療薬開発への新たな挑戦 座長：進藤 裕幸 演者：Peter Ghosh	
長崎県医師会館	第11会場 (2階 講堂)		W029 ワークショップ29 関節リウマチの早期診断 座長：大田 俊行、今福 裕司	W030 ワークショップ30 抗CCP 抗体 座長：鳥飼 勝隆、星 恵子			
	第12会場 (3階 大会議室)		W033 ワークショップ33 多発性筋炎／皮膚筋炎の臨床 座長：斎藤 栄造、船内 正憲	W034 ワークショップ34 多発性筋炎／皮膚筋炎と間質性肺炎 座長：藤田 次郎、山内 康平			
ベストエッセンス プレミアホール	イブニングセミナー会場 (3階 プレミアホール)						
長崎ブリック ホール	ポスター会場 A~F		ポスター貼付				ポスター閲覧

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
13:10 Featured Discussion 座長：小池 隆夫、江口 勝美	S02 シンポジウム2 リウマチ性疾患の難治性病態の診断と治療 座長：横野 博史、猪熊 茂子						
		IS2 国際シンポジウム2 New Horizon in Treatment of Rheumatoid Arthritis 座長：Nobuyuki Miyasaka, Josef S. Smolen		特別講演 「出島の外科医達による 近代医学の伝習」 座長：田口 厚 演者：相川 忠臣	17:50		
		15:45	W003 ワークショップ3 関節リウマチの経過と予後(1) 座長：近藤 啓文、四宮 文男	W004 ワークショップ4 関節リウマチの経過と予後(2) 座長：熊谷 俊一、當間 重人			
		W007 ワークショップ7 全身性エリテマトーデスの臨床(1) 座長：澤田 滋正、岡山 昭彦	W008 ワークショップ8 全身性エリテマトーデスの臨床(2) 座長：長澤 浩平、坪井 紀興				
		W011 ワークショップ3 シェーグレン症候群の臨床 座長：佐川 昭、松村竜太郎	W012 ワークショップ4 IgG4 と自己免疫疾患 座長：正木 康史、高橋 裕樹				
		W015 ワークショップ15 自己抗体(1) 座長：平形 道人、田中 真生	W016 ワークショップ16 自己抗体(2) 座長：室 慶直、桑名 正隆				
		S04 シンポジウム4 変形性関節症：up to date 座長：中村 耕三、木村 友厚					
		W019 ワークショップ19 関節リウマチの治療： メトトレキサートとレフルノミド(1) 座長：福田 孝昭、東野 通志	W020 ワークショップ20 関節リウマチの治療： メトトレキサートとレフルノミド(2) 座長：鈴木 康夫、松田 剛正	イブニングセミナー1 座長：西岡久寿樹、川合 眞一 RA における関節破壊機序と抗リウマチ薬の作用 演者：高柳 広 DMARD からトシメタムネ(トリスマブ)による治療へ 演者：西本 恵弘 関節リウマチにおけるSASP の関節破壊抑制効果 演者：村田 紀和 早期RA の治療戦略(DMARD と生物学的製剤の併用) 演者：松原 司			
		W023 ワークショップ23 関節リウマチ股関節の手術療法(1) 座長：腰野 富久、遠藤 直人	W024 ワークショップ24 関節リウマチ股関節の手術療法(2) 座長：山本 純己、森 俊仁				
		W027 ワークショップ27 サイトカイン・ケモカイン(1) 座長：梅原 久範、田中 廣壽	W028 ワークショップ28 サイトカイン・ケモカイン(2) 座長：佐藤由紀夫、山村 昌弘				
		W031 ワークショップ31 関節リウマチの病態解析(3) 座長：松山 隆美、中村 洋	W032 ワークショップ32 動物モデルでの関節炎の解析(3) 座長：岡本 尚、藤尾 圭志				
		W035 ワークショップ35 関節リウマチの画像診断(1) 座長：粕川 禮司、小竹 茂	W036 ワークショップ36 関節リウマチの画像診断(2) 座長：上谷 雅孝、橋本 淳				
						イブニングセミナー2 座長：小池 隆夫、宮坂 信之 TNF α and complementary pathways of joint destruction in RA 演者：Steffen Gay 関節リウマチ患者5000 例におけるインフリキシマブの使用経験 演者：竹内 龍 Setting new targets for outcome in early inflammatory arthritis: new approaches and new therapies 演者：Mark A Quinn New biologics in the treatment of patients with Rheumatoid Arthritis 演者：J. R. Kalden	
				討 論	ポスター撤去		

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチ

2日目 4月25日 (火)

施設名	会場	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
長崎ブリックホール	第1会場 (2階 大ホール)			S05 シンポジウム5 生物学的製剤：有用性、治療反応性の予測、副作用 座長：竹内 勤、田中 良哉			
	第2会場 (3階 国際会議場)	PL1 プレナリーセッション1 座長：西岡久寿樹 森本 幾夫	IS3 国際シンポジウム3 Rheumatoid Arthritis: Early Diagnosis & Prediction of Joint Destruction 座長：Ferdinand C. Breedveld、Steffen Gay		10:15	ランチョンセミナー14 Treatment Outcomes of TNF-blockers in early RA 座長：宮坂 信之 演者：Josef S Smolen	
	第3会場 (2階 リハーサル室)		W037 ワークショップ37 軟骨の変性と再生機序(1) 座長：帖佐 悦男、川口 浩	W038 ワークショップ38 軟骨の変性と再生機序(2) 座長：織田 弘美、内尾 祐司		ランチョンセミナー15 ヒアルロン酸によって調節された自己免疫細胞の数の変化は？—エビデンスに基づく研究から— 座長：松原 司 演者：松野 博明	
長崎新聞文化ホール	第4会場 (2階 翔鶴の間)		W041 ワークショップ41 骨粗鬆症・骨代謝(1) 座長：西沢 良記、萩野 浩	W042 ワークショップ42 骨粗鬆症・骨代謝(2) 座長：橋本 淳、大野 滋		ランチョンセミナー16 ステロイド療法の種類と効果 関節リウマチ及びステロイドによる腎臓病の予防と治療 座長：腰野 富久 演者：伊東 昌子、宗園 豊	
	第5会場 (3階 真珠の間)		W045 ワークショップ45 関節リウマチの治療： シクロスポリンとタクロリムス(1) 座長：種市 幸二、天野 宏一	W046 ワークショップ46 関節リウマチの治療： シクロスポリンとタクロリムス(2) 座長：尾崎 承一、田村 直人		ランチョンセミナー17 一般臨床における線維筋痛症の診断と治療の実際 座長：七川 敬次 演者：行岡 正雄	
	第6会場 (3階 珊瑚の間)		W049 ワークショップ49 自己免疫疾患とシグナル伝達 座長：岩田 久、佐伯 行彦	W050 ワークショップ50 動物モデルでの自己免疫疾患の解析(1) 座長：小野 栄夫、川口 鎮司			
文化放送 長崎	第7会場 (2階 NCC&スタジオ)		S06 シンポジウム6 関節リウマチの手術療法：適応ガイドラインと予後 座長：石黒 直樹、中村 孝志			ランチョンセミナー18 関節リウマチ治療におけるタクロリムスの位置付けと使用上の注意点 座長：井上 和彦 演者：川合 眞一	
ウェルシティ長崎	第8会場 (2階 西海の間)		S08 シンポジウム8 小児のリウマチ性疾患 座長：横田 俊平、武井 修治			ランチョンセミナー19 抗サイトカイン製剤療法における効果判定 座長：田中 良哉 演者：石黒 直	
	第9会場 (4階 アンジェラスの間)		W053 ワークショップ53 全身性エリテマトーデスの臨床(3) 座長：廣畑 俊成、横野 茂樹	W054 ワークショップ54 ループス腎炎 座長：野島 美久、有村 義宏		ランチョンセミナー20 COX-2とNSAID：COX-2阻害薬の基礎と臨床—現在と未来— 座長：中村 耕三 演者：佐野 統	
	第10会場 (4階 出島の間)		W057 ワークショップ57 関節リウマチの治療：抗リウマチ薬、ステロイド、NSAIDs等(1) 座長：吉川 敏一、羽生 忠正	W058 ワークショップ58 関節リウマチの治療：抗リウマチ薬、ステロイド、NSAIDs等(2) 座長：水島 裕、齋藤 輝信			
長崎県医師会館	第11会場 (2階 講堂)		W061 ワークショップ61 関節リウマチの臨床(1) 座長：西 千秋、西成田 進	W065 ワークショップ62 関節リウマチの臨床(2) 座長：箱田 雅之、三森 明夫			
	第12会場 (3階 大会議室)		W065 ワークショップ65 シェーグレン症候群の病因・病態(1) 座長：河野 陽一、宮脇 昌二	W066 ワークショップ66 シェーグレン症候群の病因・病態(2) 座長：小川 法良、堀内 孝彦			
ベストウェスタンホテル長崎	イブニングセミナー会場 (3階 プレミアホール)						
長崎ブリックホール	ポスター会場 A～F	ポスター貼付					ポスター閲覧

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00

総 会
表彰式と受賞講演
日本リウマチ学会・日本リウマチ財団

IS4 国際シンポジウム4
Molecular Basis of Bone Destruction and Regulation in Rheumatic Disease
座長：Hiroshi Takayanagi, Josef Penninger

WO39 ワークショップ39
全身性エリテマトーデスの病因・病態/全身性エリテマトーデスのシグナル伝達異常(1)
座長：橋本 博史、津坂 憲政

WO40 ワークショップ40
全身性エリテマトーデスの病因・病態/全身性エリテマトーデスのシグナル伝達異常(2)
座長：檜垣 恵、石井 智徳

WO43 ワークショップ43
関節リウマチ膝関節の手術療法(1)
座長：黒坂 昌弘、樋口富士男

WO44 ワークショップ44
関節リウマチ膝関節の手術療法(2)
座長：横山 良樹、斎藤 修

WO47 ワークショップ47
小児の膠原病(1)
座長：伊藤 保彦、前田 基晴

WO48 ワークショップ48
小児の膠原病(2)
座長：藤川 敏、稻毛 康司

WO51 ワークショップ51
動物モデルでの自己免疫疾患の解析(2)
座長：金井 芳之、石津 明洋

WO52 ワークショップ52
動物モデルでの自己免疫疾患の解析(3)
座長：能勢 真人、中島 衛

S07 シンポジウム7
続発性骨粗鬆症の病態と治療
座長：中村 利孝、宗園 聰

S09 シンポジウム9
機能分子を標的にしたリウマチ性疾患の治療
座長：山本 一彦、住田 孝之

WO55 ワークショップ55
関節リウマチの治療：インフリキシマブ(3)
座長：石ヶ坪良明、松原 司

WO56 ワークショップ56
関節リウマチの治療：インフリキシマブ(4)
座長：山田 明、倉田 典之

WO59 ワークショップ59
リウマチ性疾患の肺病変・肺高血圧症(1)
座長：近藤 啓文、川人 豊

WO60 ワークショップ60
リウマチ性疾患の肺病変・肺高血圧症(2)
座長：高林克己、上田 章

WO63 ワークショップ63
関節リウマチの臨床(3)
座長：松浦美喜雄、折口 智樹

WO64 ワークショップ64
関節リウマチの臨床(4)
座長：杉山 英二、岳野 光洋

WO67 ワークショップ67
血管炎症候群(1)
座長：遠藤 平仁、大橋 弘幸

WO68 ワークショップ68
血管炎症候群(2)
座長：中林 公正、保田 晋助

イブニングセミナー3 座長：小池 隆夫、木村 友厚
Raising the treatment goals of RA —Remission and radiographic inhibition 演者：Ferdinand Breedveld
Long term safety and efficacy of disease modifying drugs in rheumatoid arthritis 演者：Michael Weinblatt

討 論

ポスター撤去

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチ

3日目 4月26日 (水)

施設名	会場	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
長崎ブリックホール	第1会場 (2階 大ホール)			S10 シンポジウム10 関節リウマチの経過と予後予測 座長：江口 勝美、山中 寿			
	第2会場 (3階 国際会議場)	PL2 プレナリーセッション2 座長：小池 隆夫 宮坂 信之		IS5 国際シンポジウム5 Immunoregulation and Autoimmune Diseases 座長：Shigeo Koyasu, Diane Mathis		11:50	12:50
	第3会場 (2階 リハーサル室)			W069 ワークショップ69 関節リウマチの手術療法 座長：石川 齊、高岸 憲二	W070 ワークショップ70 関節リウマチ足の手術療法 座長：乗松 尊道、富田 哲也	ランチョンセミナー22 Novel Immunomodulatory therapies for rheumatoid arthritis: Focus on T Cells 座長：安倍 達 演者：Arthur Kavanaugh	
長崎新聞文化ホール	第4会場 (2階 翔鶴の間)			W073 ワークショップ73 全身性エリテマトーデスの病因・病態/全身 性エリテマトーデスのシグナル伝達異常(3) 座長：関川 巖、大西 勝憲	W074 ワークショップ74 関節リウマチの治療：エタネルセプト(3) 座長：潮平 芳樹、武井 正美	ランチョンセミナー23 高齢者における関節リウマチ 治療について 座長：吉田 俊治 演者：伊藤 聡	
	第5会場 (3階 真珠の間)			W077 ワークショップ77 抗リン脂質抗体症候群/混合性 結合組織病とオーバーラップ症候群 座長：鍋木 淳一、岡田 純	W078 ワークショップ78 強皮症の病因・病態 座長：佐藤 伸一、後藤 大輔		
	第6会場 (3階 珊瑚の間)			W081 ワークショップ81 ペーチェット病 座長：大田 明英、宗像 靖彦	W082 ワークショップ82 その他の膠原病(1) 座長：山本 政弘、多田 芳史		
文化放送 長崎	第7会場 (2階 NCC&スタジオ)			S11 シンポジウム11 再生医療・骨髄移植のリウマチ性疾患への適応 座長：久保 俊一、瀧美 達也		ランチョンセミナー24 調節性T細胞による免疫系の制御 Treg 感受性体による病原菌感染と自己免疫疾患 座長：小安 重夫 演者：坂口 志文、善良 静男	
ウェルシティ長崎	第8会場 (2階 西海の間)			S12 シンポジウム12 新規治療薬の適正使用ガイドライン 座長：近藤 啓文、原 まさ子		ランチョンセミナー25 関節リウマチ治療における解熱剤-NSAIDs (非ステロイド抗炎症薬)による腎障害- 座長：竹内 勲 演者：吉田 正	
	第9会場 (4階 アンジェラスの間)			W089 ワークショップ89 骨粗鬆症・骨代謝(3) 座長：松本 智子、岡田 洋右	W090 ワークショップ90 骨粗鬆症・骨代謝(4) 座長：宗圓 聡、小宮 節郎		
	第10会場 (4階 出島の間)			W093 ワークショップ93 関節リウマチの治療：白血球除去療法(1) 座長：津田 裕士、植木 幸孝	W094 ワークショップ94 関節リウマチの治療：白血球除去療法(2) 座長：日高 利彦、金井 美紀		
長崎県医師会館	第11会場 (2階 講堂)			W097 ワークショップ97 関節リウマチの関節破壊機序(1) 座長：津村 弘、水田 博志	W098 ワークショップ98 関節リウマチの関節破壊機序(2) 座長：西田圭一郎、坂田 研明		
	第12会場 (3階 大会議室)			W099 ワークショップ99 若年性特発性関節炎 座長：伊藤 保彦、下条 直樹	W100 ワークショップ100 ANCA 関連血管炎 座長：塚本 浩、井田 弘明		
ベストウェスタン プレミアホール	イブニングセミナー会場 (3階 プレミアホール)						
長崎ブリック ホール	ポスター会場 A~F		ポスター貼付		ポスター閲覧		

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00

	W087 ワークショップ87 関節リウマチの治療：インフリキシマブ(5) 座長：石黒 直樹、松井 利浩	W089 ワークショップ89 関節リウマチの治療：インフリキシマブ(6) 座長：吉田 雅治、川上 純	閉会の辞					
--	--	---	------	--	--	--	--	--

市民公開講座
「リウマチの治療を目指す」
 司会：江口 勝美
 演者：宮坂 信之、龍 順之助、Peter Shane、牧野 友彦

	W071 ワークショップ71 滑膜増殖と制御(1) 座長：亀田 秀人、細野 治	W072 ワークショップ72 滑膜増殖と制御(2) 座長：澤井 高志、上阪 等						
--	--	--	--	--	--	--	--	--

	W075 ワークショップ75 関節リウマチ上肢病変/関節リウマチ 下肢病変/生物学的製剤と手術(1) 座長：井上 和彦、立石 博臣	W076 ワークショップ76 関節リウマチ上肢病変/関節リウマチ 下肢病変/生物学的製剤と手術(2) 座長：小池 達也、田中 栄						
--	---	--	--	--	--	--	--	--

	W079 ワークショップ79 強皮症の臨床(1) 座長：遠藤 平仁、安田 泉	W080 ワークショップ80 強皮症の臨床(2) 座長：石川 治、三崎 義堅						
--	---	---	--	--	--	--	--	--

	W083 ワークショップ75 その他の膠原病(2) 座長：松本美富士、西山 進	W084 ワークショップ84 多発性筋炎/皮膚筋炎の病因・病態 座長：山田 秀裕、西間木友衛						
--	--	---	--	--	--	--	--	--

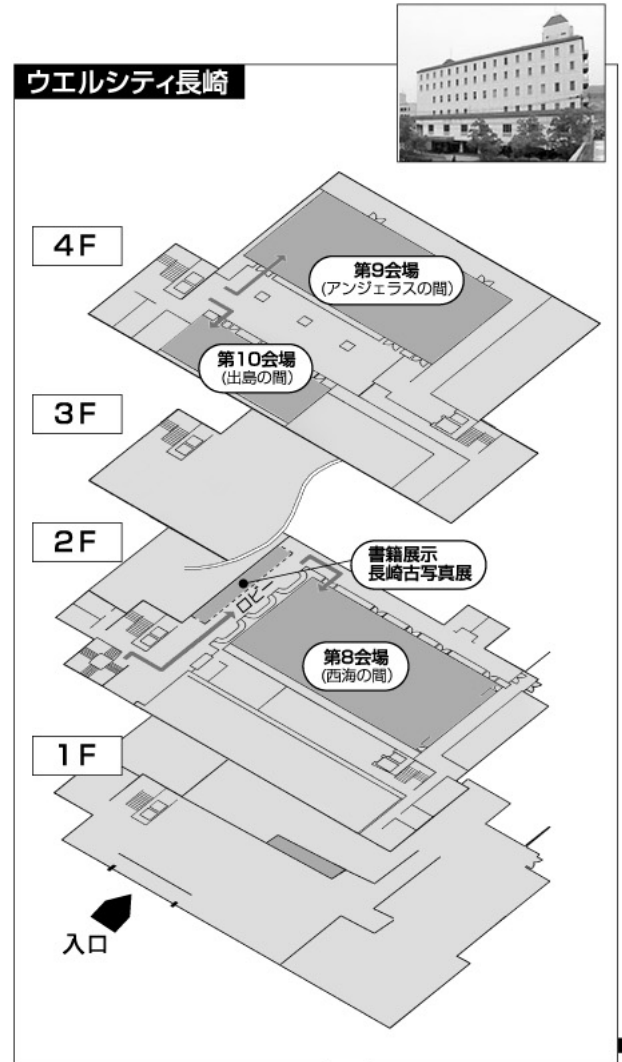
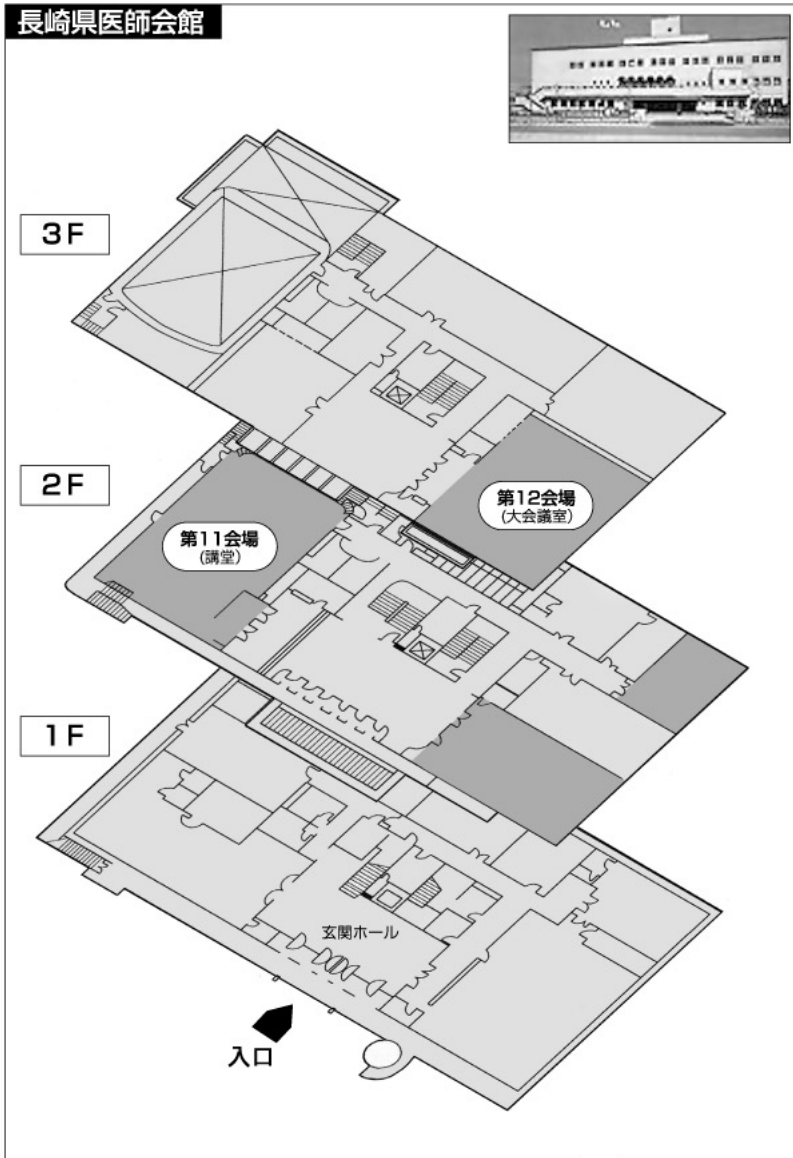
	W085 ワークショップ85 リウマチ性疾患の病因としての微生物 感染/リウマチ性疾患の遺伝子解析(1) 座長：山田 昭夫、駒井浩一郎	W086 ワークショップ86 リウマチ性疾患の遺伝子解析(2) 座長：土屋 尚之、平林 泰彦						
--	---	---	--	--	--	--	--	--

	W091 ワークショップ91 関節リウマチ膝関節の手術療法(3) 座長：三枝 康宏、徳永 大作	W092 ワークショップ92 関節リウマチの治療： その他の生物学的製剤 座長：吉崎 和幸、草場 公宏						
--	--	---	--	--	--	--	--	--

	W095 ワークショップ95 関節リウマチの経過と予後(3) 座長：市川 陽一、小柴 賢洋	W096 ワークショップ96 関節リウマチの経過と予後(4) 座長：中野 正明、大曾根康夫						
--	--	--	--	--	--	--	--	--

討 論	ポスター撤去								
-----	--------	--	--	--	--	--	--	--	--

各会場フLOOR図



※長崎ブリックホールーウエルシティー長崎県医師会館はシャトルバスが巡回します。

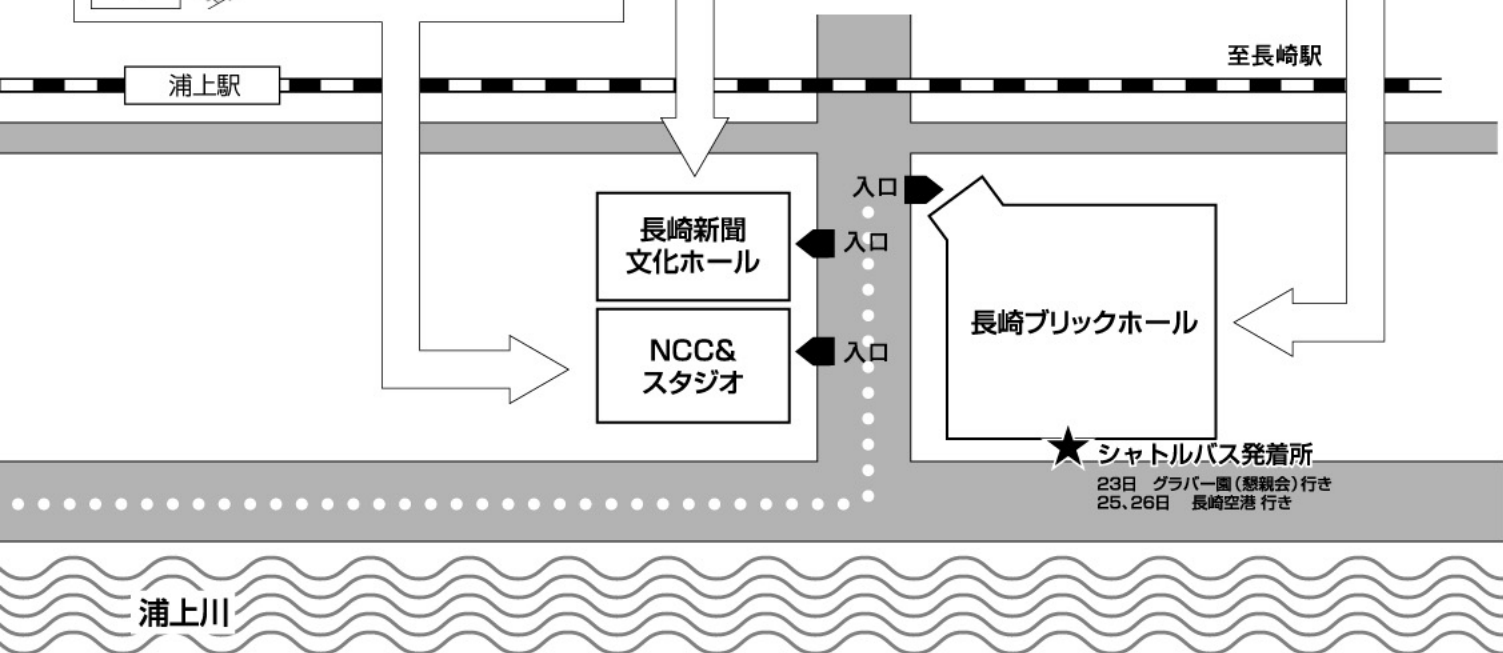
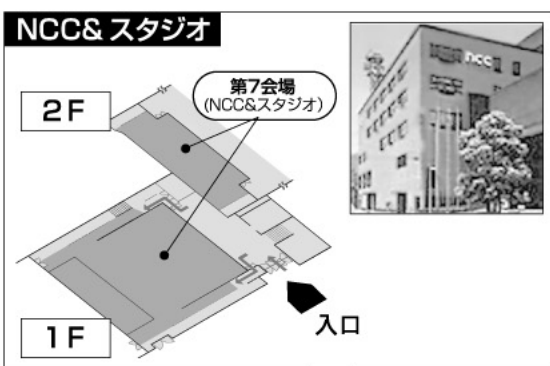
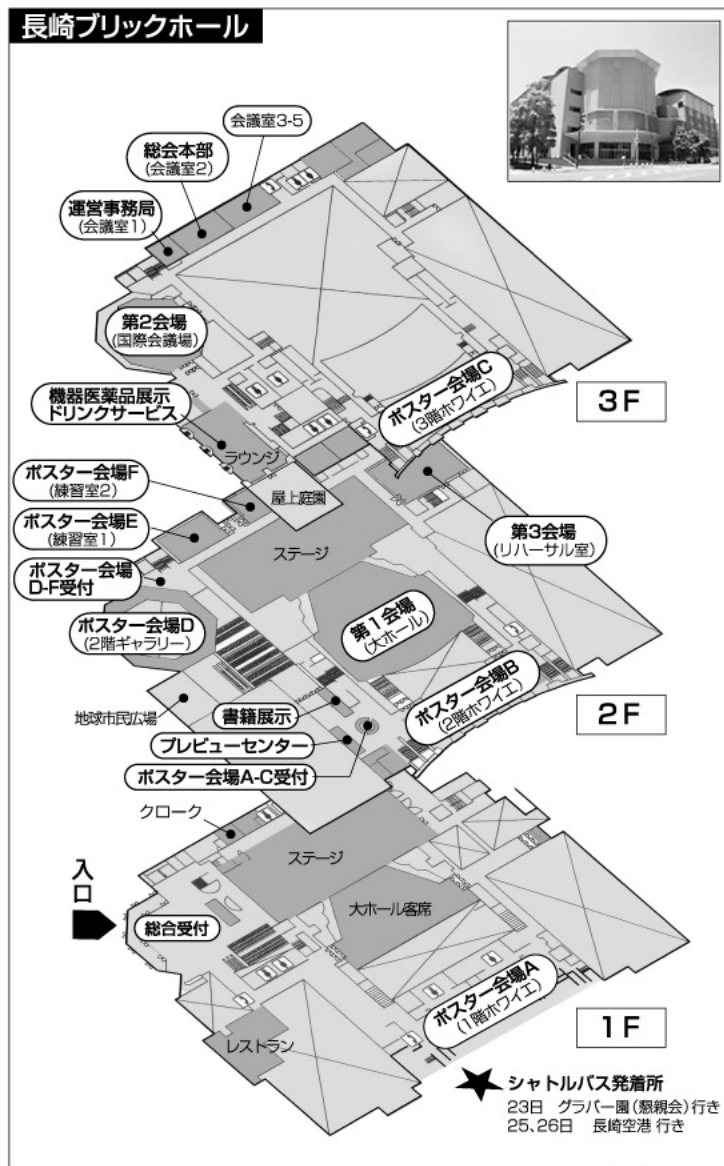
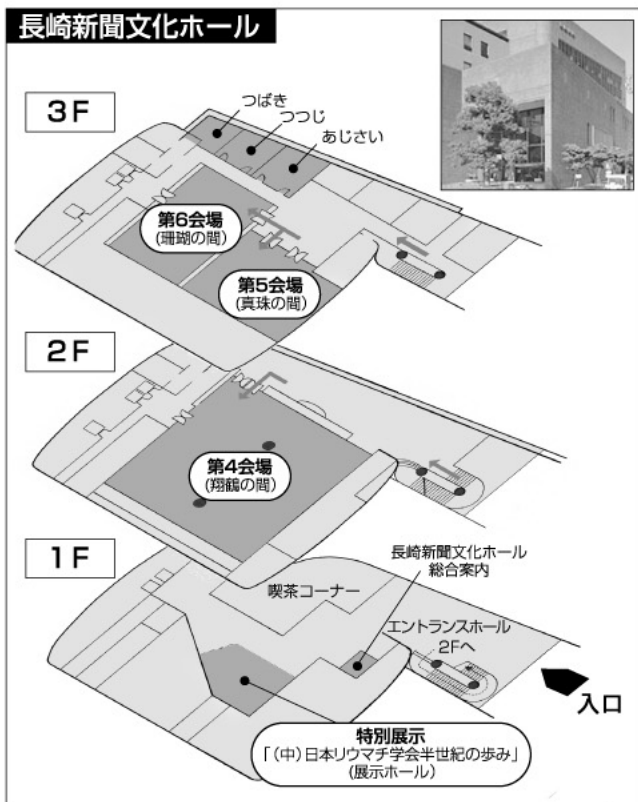
長崎県医師会館

ウエルシティ
長崎

入口

入口

歩道橋





※ 4月25日、26日の夕方より長崎空港行き臨時シャトルバスが運行します。
(予約不要)

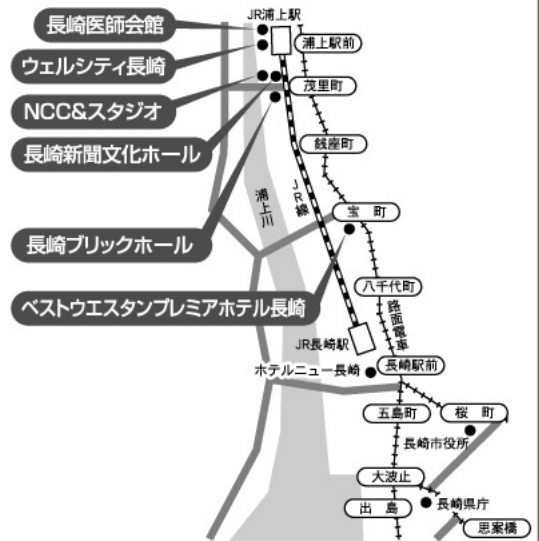
乗 車：長崎ブリックホール横シャトルバス発着所 (17ページ)

料 金：1000円

会場への交通アクセス

- ◆JR浦上駅から
徒歩3分～5分程度
- ◆JR長崎駅から
路面電車：赤迫行き（1または3番系統）茂里町下車。100円。
タクシー：約10分。1,000円程度。
- ◆長崎空港から
県営バス：浦上経由リムジンバスで浦上駅前下車。800円。
長崎バス：エアポートライナーで茂里町下車。800円。
- ◆長崎自動車道から
長崎バイパス：浦上方面出口から長崎西洋館手前三叉路を右折し陸橋へ。
ながさき出島道路：浦上方面から茂里町交差点を左折、梁川橋前で右折。

アクセスマップ



宿泊マップ

◆ホテル一覧表

番号	ホテル名	アクセス	住所	電話番号
①	ベストウエスタンプレミアホテル長崎	宝町電停より徒歩0分	〒850-0045 長崎県長崎市宝町2-26	095-821-1111
②	ホテルニュー長崎	JR長崎駅より徒歩1分	〒850-0057 長崎県長崎市大黒町14-5	095-826-8000
③	ルークプラザホテル	JR長崎駅より車で約10分	〒852-8007 長崎県長崎市江の浦町17-15	095-861-0055
④	長崎全日空ホテルグラバーヒル	グラバー園付近	〒850-0931 長崎県長崎市南山手町1-18	095-818-6601
⑤	ホテルマジエスティック	グラバー園付近	〒850-0931 長崎県長崎市南山手町2-28	095-827-7777
⑥	ホリディ・イン長崎	観光通電停より徒歩1分	〒850-0841 長崎県長崎市銅座町6-24	095-828-1234
⑦	ザ・ハミルトン長崎	正覚寺下電停より徒歩1分	〒850-0902 長崎県長崎市丸山町7-9	095-824-1000
⑧	長崎グランドホテル	JR長崎駅より車で5分	〒850-0033 長崎県長崎市万才町5-3	095-823-1234
⑨	長崎ロイヤルチェスターホテル	JR道ノ尾駅より徒歩3分	〒852-8156 長崎県長崎市赤迫3-6-10	095-856-1101
⑩	長崎パークサイドホテル	JR浦上駅より徒歩3分	〒852-8116 長崎県長崎市平和町14-1	095-845-3191
⑪	ホテルJALシティ長崎	観光通電停より徒歩3分	〒850-0842 長崎県長崎市新地町13-10	095-825-2580
⑫	長崎シティーホテルアネックス3	浦上駅より徒歩8分	〒852-8117 長崎県長崎市平野町3-2	095-845-5321
⑬	ホテルモントレ長崎	グラバー園付近	〒850-0918 長崎県長崎市大浦町1-22	095-827-7111
⑭	長崎ワシントンホテル	築町電停より徒歩2分	〒850-0842 長崎県長崎市新地町9-1	095-828-1211
⑮	ホテルニュータンダ	グラバー園付近	〒850-0843 長崎県長崎市常盤町2-24	095-827-6121
⑯	ホテルミナトパーク長崎	JR長崎駅より車で5分	〒850-0842 長崎県長崎市新地町8-16	095-827-1311
⑰	トレディアホテル出島	出島電停より徒歩1分	〒850-0862 長崎県長崎市出島町1-25	095-826-4176
⑱	ホテルサンルート長崎	JR長崎駅より徒歩7分	〒850-0035 長崎県長崎市元船町9-2	095-822-0123
⑲	JR九州ホテル長崎	JR長崎駅構内	〒850-0058 長崎県長崎市尾上町1-1	095-832-8000
⑳	長崎ホテル異邦館	JR長崎駅より徒歩3分	〒850-0052 長崎県長崎市筑後町2-1	095-822-8800
㉑	長崎バスターミナルホテル	JR長崎駅より車で10分	〒850-0842 長崎県長崎市新地町1-14	095-821-4111
㉒	ニューうらかみホテル	JR浦上駅より徒歩5分	〒852-8106 長崎県長崎市岩川町10-6	095-845-1117
㉓	長崎オリオンホテル	JR長崎駅より徒歩3分	〒850-0057 長崎県長崎市大黒町4-11	095-827-5111
㉔	トレディアホテル中島	JR長崎駅より車で10分	〒850-0018 長崎県長崎市伊勢町2-29	095-821-6060
㉕	西九州第一ホテル	JR長崎駅正面 徒歩1分	〒850-0057 長崎県長崎市大黒町2-1	095-820-1111
㉖	ウェルシティ長崎	JR浦上駅より徒歩2分	〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-20	095-845-0860
㉗	サンロード・イン	思案橋電停より徒歩3分	〒850-0903 長崎県長崎市寄合町2-11	095-821-5039
㉘	コンフォートホテル長崎	大波止電停より徒歩1分	〒850-0034 長崎県長崎市樺島町8-17	095-827-1111
㉙	ビジネスホテルニュートップ	JR浦上駅より徒歩3分	〒852-8107 長崎県長崎市浜口町13-18	095-848-8111
㊀	ビジネスホテルニューポート	出島電停より徒歩3分	〒850-0035 長崎県長崎市元船町16-12	095-821-0221
㊁	東横イン長崎駅前	JR長崎駅より徒歩5分	〒850-0021 長崎県長崎市五島町5-45	095-825-1045
㊂	長崎アイビス	JR長崎駅より徒歩10分	〒850-0034 長崎県長崎市樺島町8-19	095-824-2171
㊃	ホテルセントヒル長崎	JR長崎駅より徒歩5分	〒850-0052 長崎県長崎市筑後町4-10	095-822-2251
㊄	ホテルバルビュー長崎	出島電停より徒歩1分	〒850-0861 長崎県長崎市江戸町1-20	095-826-5030
㊅	ニューポートセンターホテル	市内中心部まで車で40分	〒851-2211 長崎県京泊2-9-42	095-850-4008
㊆	長崎梅松鶴	JR長崎駅より車にて15分	〒850-0041 長崎県長崎市浜平2-14-1	095-824-2153
㊇	長崎日昇館	JR長崎駅より車で10分	〒850-8588 長崎県長崎市西坂町20-1	095-824-2151
㊈	矢太楼南館	JR長崎駅より車にて15分	〒850-0803 長崎県長崎市風頭町2-1	095-828-1111
㊉	矢太楼	JR長崎駅より車にて15分	〒850-0803 長崎県長崎市風頭町2-1	095-822-8166
㊀	稲佐山観光ホテル	JR長崎駅より車で10分	〒852-8008 長崎県長崎市曙町40-23	095-861-4151
㊁	長崎ビューホテル	JR長崎駅より車で10分	〒850-0918 長崎県長崎市大浦町2-33	095-824-2211

口演発表について

口演は、パソコンでの発表のみと致します。スライド、OHP、ビデオでの発表はできません。

ご自身のノートパソコンまたは、メディアをご持参下さい。

ご発表前に、PCオペレーター立会いのもと動作確認を行いますので、ご発表の1時間前までにプレビューセンターまでノートパソコンまたはメディアをご持参ください。なお、23日以降、早朝セッションの演者はできるだけ前日にPCセンターまで受付を済ませてください。

■プレビューセンター

- ・長崎ブリックホール 2階 ホワイエ (全会場共通)
※他施設の会場で行う講演もプレビューは長崎ブリックホールで行ってください。
受付時間： 7:30-17:00 (26日は16:00まで)

〈メディア持ち込みによる発表〉

- ・メディアは、CD-ROM、USBメモリーのみとさせていただきます。MO、FD、ZIPその他のメディアは受付られませんのでご注意ください。
- ・プレビューセンターおよび発表用にご用意するPCはWindows XP及び Macintosh OS Xとなります。
- ・データ内に動画・音声が含まれる場合は、プレビューセンターで係員へお申し出下さい。
- ・講演は、演台に準備したモニター、キーボード、マウスを用いて発表して下さい。
- ・画像解像度はXGA (1024×768) に設定して下さい。これより大きい場合はスライドの周囲が切れてしまいます。

〈ノートパソコン持込による発表〉

- ・ノートパソコン (WindowsまたはMacintosh) と電源アダプタをご持参下さい。
- ・Mini D-SUB15ピン以外の変換ケーブルが必要な場合は、変換コネクタをご持参下さい。
- ・発表中にスクリーンセーバーや省電力モードにならないよう事前に設定して下さい。
- ・OS・プレゼンテーションソフトともバージョンは問いません。ただし、Winndows98以降、MacOS 8.6以降でのデータ作成をお勧めします。また、Persuation 3.0JやPowerPoint 5.0等の古いソフトは使用しないでください。
- ・プレビューセンターで試写を済ませた後、発表の20分前までに発表会場内PCデスクにご自身でパソコンを運搬して下さい。
- ・発表終了後、パソコンは、会場内のPCデスクで返却致します。

ポスターセッションについて

- ・ポスター貼付時間内に、ポスター会場受付にて、演者用リボン (黄色) を受け取り、ポスターを貼付してください。

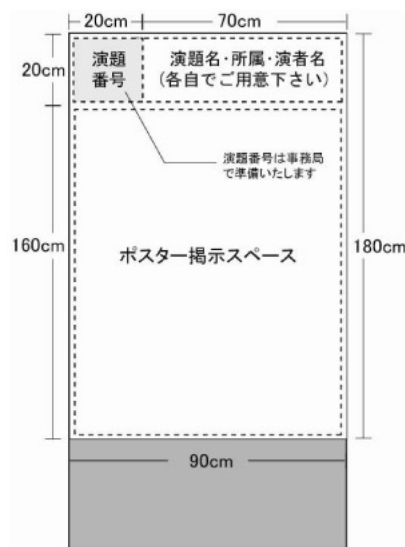
尚、ポスター会場A-Cと、ポスター会場D-Fでは受付場所が異なりますのでご注意ください。

ポスター会場A-C受付：長崎ブリックホール 2階 ホワイエ

ポスター会場D-F受付：長崎ブリックホール 2階 エレベーターホール入口

- ・発表10分前までには、演者用リボンを着用し、ご自身のポスターの前に待機してください。
- ・ポスターパネルには下記のように縦160cm、横90cmの貼付スペースにポスターを掲示してください。
- ・演題名、所属、演者名はご自身でご準備下さいますようお願い致します。演題番号は事務局にて準備いたします。
- ・貼付用の押しピンは事務局で用意します。
- ・セッション終了後、ポスターは撤去時間内に必ず各自撤去して下さい。学会終了後会場に残ったポスターは事務局で処分しますので予めご了承下さい。

	4月24・25日	4月26日
貼付	8:00~9:00	8:00~9:00
閲覧	9:00~17:00	9:00~13:00
討論	17:00~18:00	13:00~14:00
撤去	18:00~19:00	14:00~15:00



その他 ご案内

《座長の皆様へ》

◆口演座長

発表時間、質疑応答時間を厳守し、円滑な運営にご協力をお願いします。

セッション開始15分前までには会場右手最前列の次座長席にお越しの上、進行係に声を掛けてください。

◆ポスターセッション座長

セッション開始10分前までにポスター会場受付にお越しください。ご出席を確認し、座長用リボン(赤色)をお渡ししますのでセッション開始前に着用して下さい。

特に進行係はおりませんので、セッション開始時間になりましたら、各自ではじめてください。進行は一任しますが、セッション終了時間は厳守してください。

《その他》

会場内での携帯電話は、マナーモード設定をするかあるいは電源を切って会場にお入り下さい。参加者への呼出しは総合受付前のメッセージボードにて行います。随時掲示をご確認ください。

《各種会議日程》

理事会	4月23日	12:00~15:00	長崎ブリックホール	3階	会議室4・5
評議員会	4月23日	15:15~17:45	長崎ブリックホール	3階	国際会議場
総会	4月25日	13:10~13:50	長崎ブリックホール	2階	大ホール

《会員懇親会》

日時：4月23日(日) 19:00-21:00 (予定)

会場：グラバー園 (長崎県長崎市南山手町8-1)

※雨天時：ベストウェスタンプレミアホテル長崎

※グラバー園までは、学会場よりシャトルバスを運行いたします。

参加費：3,000円

※ご参加の際は、学術集会ホームページより、事前申込みをお願いします。

当日参加受付もごさいますが、定員を超えた場合は、事前申込の方を優先させていただきます。

○学術集会ホームページ

<http://www.congre.co.jp/jcr2006/>

市民公開講座

日時：2006年4月26日(水) 14:00~16:00 (受付開始13:30~)

会場：第3会場 (長崎ブリックホール 3階 国際会議場)

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町2-38

TEL. 095-842-2002

参加費：無料(定員350名)

参加方法：当日会場へ直接お越し下さい。事前のお申し込みは不要です。

お問い合わせ先：

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会運営事務局

株式会社コングレ九州支社内

〒810-0001 福岡市中央区天神1-9-17-5F

TEL: 092-716-7116 FAX: 092-716-7143

E-mail: jcr2006@congre.co.jp

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチシンポジウム

プログラム

テーマ：— リウマチの治療を目指す —

司会：江口勝美（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・制御学講座（第一内科）教授）

パネリスト：「リウマチを良くするために」

宮坂信之（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 膠原病・リウマチ内科学分野 教授）

「リウマチで寝たきりにならないために」

龍順之助（日本大学医学部 整形外科 教授）

「外国（米国）での治療の現状」

Dr. Peter Shane (Western Colorado Rheumatology Clinic)

「関節リウマチへの行政の取組と展望」

牧野友彦（厚生労働省疾病対策課 難病医療・アレルギー疾病・エイズ指導係長）

主催：第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会

後援：(財)日本リウマチ財団、(社)日本リウマチ友の会、長崎県、長崎市、長崎県医師会、長崎市医師会

特別企画

1. Featured Discussion (討論会)

リウマチ学の半世紀を鑑み、若手リウマチ医に望むこと

リウマチ学の半世紀の成果、今後の展望、将来への期待

日時：4月24日(月) 13:10~14:30

会場：第1会場（長崎ブリックホール 2階 大ホール）

司会：小池隆夫（北海道大学大学院医学研究科 病態内科学講座・第二内科）

江口勝美（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・制御学講座（第一内科））

討論者：「我が国のリウマチ病理50周年の研究史から何を学ぶか」

京極方久（東北大学名誉教授）

「基礎免疫学から疾患の免疫学へ」

山本一彦（東京大学医学部アレルギーリウマチ内科）

「診断、予防、治療、QOLとゲノム科学」

笹月健彦（国立国際医療センター 総長）

「画像診断の変遷」

松井宣夫（名古屋市総合リハビリテーションセンター）

「薬物治療の変遷」

安倍 達（埼玉医科大学名誉教授）

「リウマチ外科の未来への展望」

龍順之助（日本大学医学部整形外科）

2. 特別展示「(中)日本リウマチ学会半世紀の歩み」

展示会場：長崎新聞文化ホール1階 展示ホール

展示期間：4月24日(月)~4月26日(水)

3. 特別講演「出島の外科医達による近代医学の伝習」

日時：4月24日(月) 17:00~17:50

会場：第2会場（長崎ブリックホール 3階 国際会議場）

座長：田口 厚（(中)日本リウマチ学会名誉会員）

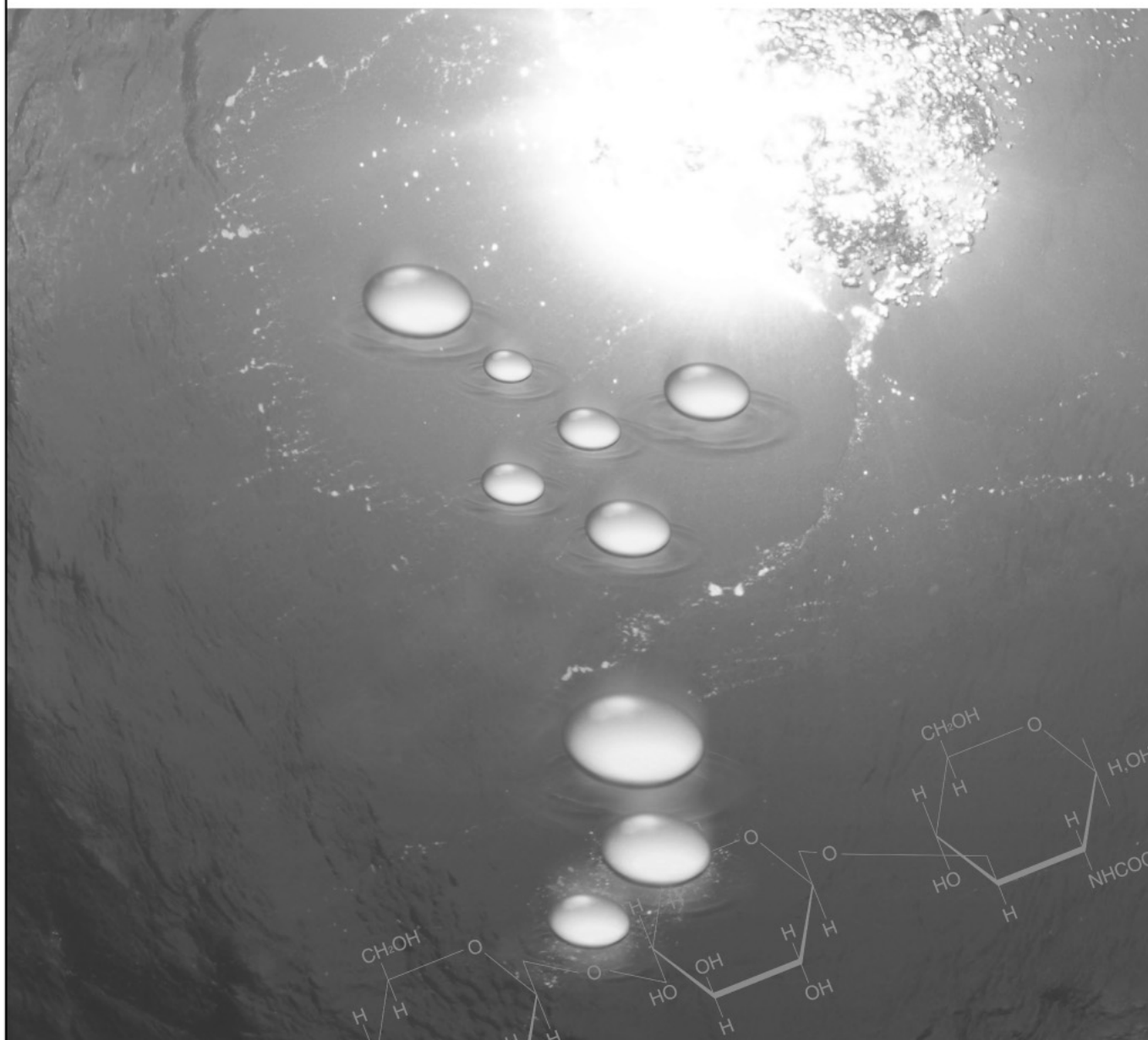
講演：相川忠臣（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 病態解析・制御学講座 内臓機能生理学分野 教授）

4. 長崎古写真展

江戸時代から明治にかけての古写真の展示

展示会場：ウェルシティ長崎 2階 ロビー

展示期間：4月24日(月) ~ 4月26日(水)



関節機能改善剤

指定医薬品、処方せん医薬品^{注)}

薬価基準収載

スベニール ディスポ
SUVENYL[®] バイアル

ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。 <http://www.chugai-pharm.co.jp>

製造販売元



CHUGAI

[資料請求先]

中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

Roche ロシュグループ

2005.10

(中)日本リウマチ学会創立50周年記念企画

第一回

歴代会長及び名誉会員の声と提言

有限責任中間法人日本リウマチ学会は本年、創立50周年を迎えます。本誌は50周年記念の年2006年に3回シリーズで特集を組み、学会の発展に貢献された歴代会長や名誉会員の声と提言を掲載します。第1回目特集は、第33回学会までの学会長の取り上げました。



川上 保雄 | 第13回日本リウマチ学会総会 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員
昭和大学 名誉学長

リウマチ学会創生期の思い出

学会の最初の発足は昭和30年のリウマチ研究会だった。これは東京大学物療内科大島良雄教授の発案で、前教授三沢敬義先生と整形外科三木威勇治教授3先生の話し会に私は陪席させて戴いた。要は三木先生、三沢先生御主導の下に発足させて行こうということだった。当時はわが国ではRAの概念がまだ十分に確立されていなかった時代で、基礎に臨床に隔世の感ある学会の発展に感無量なるものがある。50周年に当り学会の更なる発展を願うものである。



塩川 優一 | 第20回日本リウマチ学会 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員
順天堂大学 名誉教授

皇后陛下のお言葉

日本リウマチ学会50周年を心よりお祝いします。この機会にご報告します。皇后陛下よりこの度、私にお言葉集「あゆみ」をご恵送賜りました。陛下には、日本リウマチ友の会名誉理事長、島田広子様を通して難病リウマチに対して深く関心を持たれ、このお言葉集は3遍のリウマチの会での患者に対する温かいお言葉が載せられています。私も再三皇后陛下からじきじきにおはげましのお言葉を頂きました。「あゆみ」は、宮内庁侍従職監修、海竜社出版 (FAX: 03-3541-5484)。p207、251、英文p142に掲載。



七川 欽次 | 第21回日本リウマチ学会総会 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員
行岡医学研究会行岡病院 名誉院長

リウマチ医

第42回の学会での柏崎禎夫教授の会長講演 (生前に録音されたもの) は最も印象深いものでした。これは死期を考えて、日本リウマチ学会の会員に是非とも言い残しておきたい先生の思いを極めて率直に述べたものです。

この講演で感銘を受けた第一の点は、わが国では、リウマチという呼称が本来の総称的な医学用語としてではなく、一つの疾患 (RA) の診断名として利用されていることの誤りを指摘されたことです。この講演中、先生は「慢性関節リウマチ」といわず、あえて「リウマトイド関節炎」の訳語を用いられていました。第二に、リウマチの標榜が厚生省に認められた結果、かえってリウマチの専門化の確立が後退したという点でした。実際現状ではリウマチ医ではなく、RA医ができています。私はかねがね柏崎先生をわが国の数少ないリウマチ医と思っていましたので、この先生の見識に今迄に無く強い感動を覚えました。



御巫 清允 ■ 第28回日本リウマチ学会総会 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員
自治医科大学 名誉教授 (財)痛風研究会 理事長

児玉先生への感謝

今日の日本リウマチ学会の隆盛は故児玉俊夫先生のご功績をわすれてはならない。眞鍋嘉一郎先生はじめ東京大学物療内科の功績とともに、現在のリウマチ学の基礎を作られた功は今考えても驚くべきものである。スミスのピラミッドから脱し得なかった日本のリウマチ界に、臨床研究の方針を具体的に示し、コンドロイチン硫酸やワーラーローズ反応〔大高裕一先生(当時東京医大)指導下の病理研究〕等多方面に進められ、泥沼と云われたリウマチ学を今日の根治へ向けての改革の基礎を構築された児玉先生のことは忘れてはならないことです。



延永 正 ■ 第29回日本リウマチ学会総会 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員

リウマチ学会の思い出 (第29回、昭60)

私は昭和36年に別府の九州大学温泉治療学研究所に入局し、リウマチを志しましたが、翌37年、別府で第6回の総会がありました。演題数約70題。小さな公民館で開催され、内科のリウマチなど無視されがちな状況でした。しかし米国ではリウマチ学が独立していることを確かめ自信を持ちましたが、第29回学会総会の演題数は一般だけで407題、7会場を使う盛会でリウマチ学の発展を実感しました。昨年(第49回)が1025演題ということから本学会の発展ぶりには、驚きすら感じます。



宮本 昭正 ■ 第31回日本リウマチ学会総会 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員

思い出

昭和62年、第6回SEAPAL国際リウマチ学会の事務総長、組織委員長として塩川優一會長のお手伝いをしてANAホテル、ホテルオークラ、サントリーホールの三施設を使って学会を運営させていただいた。その際、塩川先生の御供をして東宮御所を何度か訪ね、当時の皇太子ご夫妻の開会式およびレセプションへの御来臨を恭うすることが出来ました。御夫妻はレセプションでは予定の時間を1時間近くもオーバーされ、写真の被写体ともなられ、外人参加者からは大変喜ばれていた。心に残る良い思い出の一つである。

初代日本人SEAPAL(現APLAR)会長より



佐々木 智也 ■ 元SEAPAL 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員

国際学会の思い出と今後の学会への期待

1976年から1980年までの間、小生はAPLARの前身であるSEAPALの会長として尽力する機会を得ました。当時、学会はすでに国際的な学会組織として歩み始めていましたが、SEAPALのリーダーシップをとっておりましたのは英語が堪能なオーストラリアやインドでした。70年代になると日本の研究者も国際的な学会活動の能力を付けはじめ、さらに後年の1988年には東京にて第6回SEAPAL国際リウマチ学会が日本国内で初めて開催されたのでした。

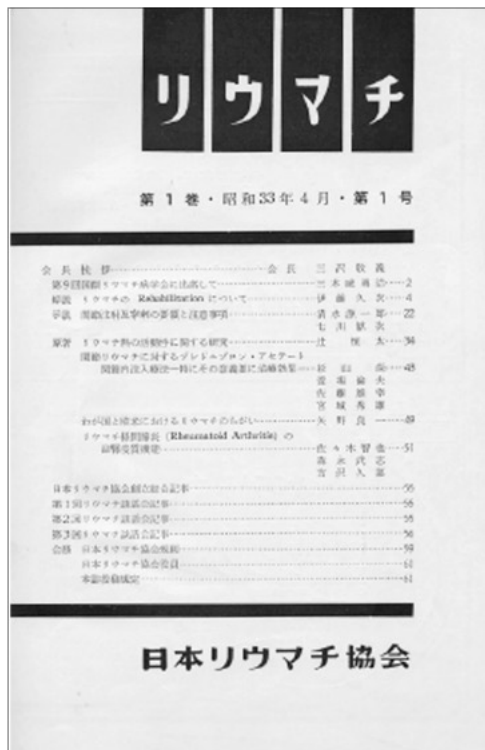
APLARの会長が日本から再び選出され、同時にAPLARの国際会議を日本で開催する運びと伺いましたことは、学会における先人として誠に慶賀の至りに存じます。また学会の新たな50年に向けてさらに国際的な発展をすることを心より祈念するものです。

創立50周年記念特別展示のご案内

— (中) 日本リウマチ学会半世紀の歩み —

(中)日本リウマチ学会会員の皆様におかれましてはご清栄のことと存じます。さて、(中)日本リウマチ学会も今年で創立50周年を迎え、記念に「(中)日本リウマチ学会半世紀の歩み」という特別展示を企画いたしました。今回の展示では日本リウマチ学会の創成期から現在までの流れをパネル展形式で展示し、日本リウマチ学会に関する書籍類展示を併せて行う予定としております。パネル展ではまず、日本のリウマチ学の初期、大正から昭和にかけての学術発表や書籍の紹介を行います。また、日本リウマチ学会の前身である日本リウマチ協会の第一回総会関連の展示、第一回総会の会長をされた三沢敬義東京大学教授のお写真や、第一回リウマチ学会総会の議事録の展示なども予定いたしております。また、学会誌「リウマチ」第一巻第一号(昭和33年発刊)の内容展示も併せて企画しております。また当時の日本リウマチ協会規則や、協会役員のお名前なども日本リウマチ協会創立総会記事と併せてご紹介する予定です。さらに、日本リウマチ協会・学会を通じて発刊されました和文誌「リウマチ」、欧文誌「Japanese Journal of Rheumatology」や「Modern Rheumatology」、「リウマチ学用語集」も展示予定としております。また歴代リウマチ学会総会学術集会の会場および会長一覧なども併せて展示する予定としておりますので、日本のリウマチ学の発展の流れをパネル展で回想するよい機会であると考えておりますので、会期中ご多忙であるとは思いますがこちらにも足を運んで頂けたらと思います。なお、展示会場は長崎ブリックホール前の長崎新聞文化ホール1階です。

第50回(中)日本リウマチ学会会長 江口勝美、企画展担当 中村英樹、有馬和彦



和文誌「リウマチ」第1巻1号

三沢敬義先生の会長挨拶をはじめ、日本リウマチ協会創立総会記事や当時の協会規則、原著などが収録されています。

(中) 日本リウマチ学会 創立50周年記念祝辞

On the occasion of its 50th anniversary year, We congratulate Japan College of Rheumatology (JCR) for its progress and wish for the success of JCR2006 and the 15th International Rheumatology Symposium.

創立50周年記念に当たり、(中)日本リウマチ学会 (JCR) の発展に祝意を表し、第50回JCR総会・学術集会第15回国際リウマチシンポジウムのご成功を心よりお祈りいたします

(五十音順配列)

アステラス製薬株式会社 Astellas Pharma Inc.

旭化成ファーマ株式会社
ASAHI KASEI PHARMA CORPORATION

 **Abbott** アボット ジャパン株式会社
A Promise for Life ABBOTT JAPAN CO., LTD.

  **Eisai** エーザイ株式会社
Eisai Co., Ltd

 **科 研 製 薬 株 式 有 限 公 司**
Kaken Pharmaceutical Co., Ltd.


 **Santen** 参天製薬株式会社
SANTEN PHARMACEUTICAL CO., LTD.

 **株 式 有 限 公 司 三 和 化 学 研 究 所**
SANWA KAGAKU KENKYUSHO CO.,LTD

 **DAINIPPON SUMITOMO PHARMA** 大日本住友製薬株式会社
Dainippon Sumitomo Pharma Co., Ltd.

 **武 田 薬 品 工 業 株 式 有 限 公 司**
Takeda Pharmaceutical Company Limited

 **田 辺 製 薬 株 式 有 限 公 司**
Tanabe Seiyaku Co., Ltd.

 **CHUGAI** 中外製薬株式会社
A member of the Roche group

 **DePuy** ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
デピュー・ジャパン
Johnson & Johnson K. K. DePuy Japan

 **鳥 居 薬 品 株 式 有 限 公 司**
TORII PHARMACEUTICAL CO., LTD

 **三 菱 ウ ェ ル フ ァ ー マ 株 式 有 限 公 司**
Mitsubishi Pharma Corporation

Wyeth® ワイス株式会社
Wyeth K.K.

2005年度日本リウマチ学会第18次「リウマチ指導医」認定者

2005年度のリウマチ指導医には次の132名の方が認定されました。
 なお、認定証の有効期間は2006年3月1日から2011年2月28日までです。

青木 和利	赤荻 淳	安達永二郎	阿部 修治	天崎 吉晴	天野 宏一	石井 智徳	石神 伸
石黒 直樹	乾 健太郎	井上 博	今井 裕一	上田 俊一	宇田 裕史	浦田 幸朋	江崎 幸雄
江澤 和彦	大石 勉	大野 滋	大村浩一郎	岡 寛	小笠原 孝	緒方 篤	小椋 庸隆
小山内俊久	小野 勝之	片田 圭宣	片山 雅夫	加藤 興	金井 芳之	北 靖彦	北村 登
久我 芳昭	日下 義章	公文 義雄	小池 達也	小池 竜司	河野 肇	児玉 直樹	小早川雅洋
小林 明正	小松田 敦	近藤 正宏	近藤 泰紘	佐伯 修	齊藤 聖二	佐藤 健夫	沢田 哲治
澤部 琢哉	茂山 幸雄	嶋村 正	清水 昌人	末松 栄一	鈴木 毅	砂原 伸彦	高木 賢治
高橋 裕樹	高橋 央	高林克日己	多喜 博文	瀧田 寿彦	竹内 健	武内 徹	竹田 剛
岳野 光洋	竹村 清介	田島 克己	立原 章年	立石 睦人	田中 信行	田中 康仁	谷村 一秀
田村 裕昭	丹野 亮	帖佐 悦男	塚本 浩	塚本 正美	津村 弘	當間 重人	土橋 浩章
中川 夏子	中崎 聡	中島 衡	永淵 裕子	棗田 将光	難波 大夫	南木 敏宏	西田圭一郎
西村 慶太	西本 憲弘	根来 伸夫	野島 崇樹	萩野 浩	橋本 尚明	橋本 洋夫	橋本 淑子
長谷川 潤	長谷川 尚	濱崎 健	平林 泰彦	平松 和子	福田 互	藤川 陽祐	藤田 宜是
堀内 孝彦	政田 和洋	増子 佳世	松井 利浩	松川 吉博	松木 泰憲	松崎 剛	松下 格司
松橋めぐみ	松本 智子	三河 義弘	峯 孝友	簗田 清次	三部 順也	三村 俊英	宮島 成夫
宮原 寿明	村川 洋子	持田 勇一	泉二 恭輔	本島 新司	森 諭史	山内 勇人	山崎 健
行岡 正雄	吉井 一郎	吉澤 誠司	渡辺 浩志				

2005年度日本リウマチ学会第19次「リウマチ専門医」認定者

2005年度のリウマチ専門医には次の192名の方が認定されました。
 なお、認定証の有効期間は2006年3月1日から2011年2月28日までです。

秋元 正樹	足立 倫代	天本 藤緒	安藤喜一郎	飯塚 篤	飯山 準一	池内 秀和	石井 泰子
石井 亘	伊藤 秀一	井上 靖	今川 智之	岩井 秀之	岩田 直美	岩田 恭宜	呉 和朗
上田 敦久	浦野 和子	大木 美衣	大野美香子	大森 治	大森 正幸	岡崎 貴裕	岡崎 瑞江
岡上 準	岡田 正人	岡本 奈美	蔭山 豪一	片岡 浩	金子 和光	蒲池 誠	上川 哲平
川村孝一郎	木村 洋貴	久保かなえ	倉石 譲治	建部 一夫	河野 正孝	児玉 常憲	小山 貴子
佐藤 昌明	塩 季織	篠田晃一郎	柴田 恵介	島田 浩太	清水早希子	白鳥 共二	浄土 智
杉原 毅彦	杉山公美弥	鈴木 勝也	鈴木 園子	鈴木 大介	鈴木知佐子	鈴木美佐子	角田 佳子
関口 直哉	瀬田 範行	曾根 三郎	高河 慎介	高下 光弘	高田 邦夫	高田由紀子	高取 宏昌
高橋 京子	高橋 成和	高樋康一郎	竹尾 正彰	竹下 美紀	田村 茂生	辻 成佳	常泉 吉一
妻木 範行	豊川 泰彦	鳥畑 秀子	中川 典明	中島 章子	中島 裕史	中村 卓司	中村 知子
永井 立夫	西坂 浩明	二宮 俊憲	根路銘安仁	野崎 祐史	則井 美佳	畠山 牧男	平松 範行
廣田 浩一	廣村 桂樹	福岡 利仁	福島 達夫	藤井 健司	藤井 裕子	藤尾 圭志	藤田 之彦
藤本 隆	別府 達也	星野 純一	本田善一郎	松田 正之	松本 隆文	丸山 哲弘	南 留美
宮川 弘	宮本 俊明	向井 知之	森 成志	柳沢 孝夫	山口 正雄	山本 高裕	山本 博幸
山本 基	兪 炳碩	吉雄 直子	吉田 秀	吉藤 元	渡邊 紀彦	赤坂 俊樹	赤松 俊浩
秋山 寛治	安部 理寛	石井 卓	石黒 義章	石原銀太郎	石橋 徹	伊藤 茂	伊藤 宣
井上 淳	岩崎 一夫	上原 千典	植村 理	上村 修一	恵木 丈	大灣 一郎	岡野 智
奥田 康介	小田 裕造	小野 俊明	柿沼 工	金谷 文則	上ノ町重和	狩山 憲二	後藤 英之
榊原 壤	志田 純一	品田 充美	島崎 朗	十字 琢夫	瀬形 建喜	高原 一洋	田口 浩之
只野 功	館 靖彦	田中 章善	田中 庸二	棚原 豊	谷川 浩隆	友田 良太	豊原 一作
土井 順博	中島 匡敏	中土 幸男	中野 裕治	仲村 一郎	根岸 宏一	橋詰 謙三	畑 洋
林 智樹	樋口 泰光	平川 永徳	平田 正純	平野 篤	福嶋 賢三	藤井 昌一	藤田 郁夫
藤谷良太郎	藤原 一夫	星野弘太郎	松崎 信夫	松本 雄	三橋 浩	宮崎 寛	村上 弘
茂呂 貴知	茂呂 徹	八十田貴久	柳 英浩	柳澤 和芳	山川 晃司	山口 和男	米田 和彦

2006年度日本リウマチ学会教育施設募集および継続申請のお知らせ

[教育施設の募集について]

日本リウマチ学会では前年度に引き続き2006年度の教育施設の募集を行います。認定を希望する診療施設は、次の各号の条件をすべて満たしていることが必要です。

1. 総合病院、またはこれに準ずる病院、およびリウマチ専門病院
2. リウマチ性疾患が年間100症例（関節リウマチを30症例以上含む）以上あること。
3. 研修環境が総合的に整備されていること。
4. 指導医1名以上、または専門医2名以上が勤務していること。なお、専門医1名は定期的に勤務する非常勤（2回/月程度以上）を含めることができる。
5. リウマチ学に関連する教育が定期的に行われていること。

教育施設の認定を申請される診療施設の長は、教育施設申請用紙をE-mail又はハガキで事務局までご請求下さい。

教育施設の認定のための日程は、申請受付を2006年6月末日で締切り、認定審査を行い9月に認定の通知を発送する予定です。

[教育施設の継続申請について]

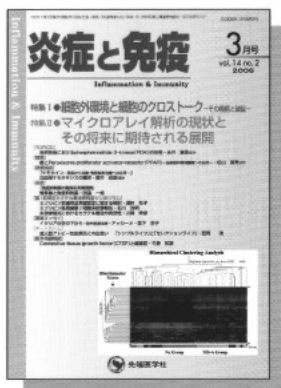
2003年9月1日新規または継続認定の教育施設につきましては、認定証の有効期限が2006年8月31日となっておりますので資格維持の手続きが必要となります。5月中に本委員会から該当する教育施設に「継続申請書」用紙を送付いたしますので、継続を希望される教育施設は2006年6月末日までに同申請書を提出下さい。

なお、日本リウマチ学会「教育施設」一覧表をニュースレター2005 No.8 6～12頁に掲載していますのでご参照下さい。

分子リウマチ

Molecular Rheumatology

<p>編集主幹 住田 孝之 筑波大学大学院人間総合科学研究科 先端応用医学系専攻臨床免疫学教授</p> <p>編集幹事 木村 友厚 富山大学医学部整形外科学教授 竹内 勤 埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科教授</p> <p>山本 一彦 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻 アレルギーリウマチ学教授</p>	<p>◆A4判 ◆90ページ程度 ◆季刊/年4回 (3・6・9・12月の各前月20日)発行 ◆定価：2,415円(税込み) ◆年間購読料：9,660円(税込み)</p>
--	--



炎症と免疫

Inflammation & Immunity

<p>編集主幹 水島 裕 東京慈恵会医科大学DDS研究所所長</p> <p>編集委員 池田 康夫 慶應義塾大学医学部教授 垣生 園子 東海大学医学部教授 宮坂 信之 東京医科歯科大学大学院教授 室田 誠逸 東京医科歯科大学名誉教授 山本 一彦 東京大学大学院医学系研究科教授</p>	<p>◆B5判 ◆120ページ程度 ◆隔月刊/偶数月の20日発行 ◆定価：2,100円(税込み) ◆年間購読料：12,600円(税込み)</p>
---	--



株式会社 **先端医学社**

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-17-8 浜町花長ビル
TEL 03-3667-5656(代)/FAX 03-3667-5657
http://www.sentan.com

各支部だより

(中) 日本リウマチ学会北海道・東北支部

日本リウマチ学会北海道・東北支部の支部長は、平成17年4月、長くつとめられた東北大学大学院医学研究科・佐々木毅教授より、北海道大学大学院医学研究科・小池隆夫教授へと引きつがれました。それに伴いまして、支部事務局は東北大学・血液リウマチ膠原病内科から北海道大学・第二内科へとつりました。

北海道・東北地区は総面積14.4万平方キロメートルの広い地域からなり、956名で構成される支部会員は、総人口1537万人のリウマチ性疾患の診療を担っています。そのうちリウマチ学会認定専門医は、北海道131人、青森県13人、岩手県29人、秋田県25人、山形県21人、宮城県46人、福島県46人となっており、合計で311人がリウマチ性疾患の診療、教育、指導に携わっております。地域によって差はありますが、総じて人口100万人あたりの専門医数は20.2人となります。もっとも多い北海道は23.1人で、これは東京都の40.9人に比べると少ないですが、神奈川県は25.1人と匹敵する数字となっています。北海道東北地区は「医療過疎」といったイメージが強いのですが、リウマチ診療に関しては北海道は人口あたりの専門医数という要素から見るとそれほど遜色ない状況と考えられます。一方、もっとも少ない青森県は8.9人で、首都圏との差がはっきりしており、厳しい状況のなかでリウマチ診療をおこなっていることがわかります。

ところが、このデータを面積あたり、としてみると、愕然とする数値に遭遇します。北海道・東北地区全体で、リウマチ専門医は1,000平方キロメートルあたり22人です。北海道だけなら1.7人、青森県だけでは1.4人です。これが神奈川県ですと93.7人、東京都では236人になります。すなわち、北海道・東北地区の「リウマ

チ専門医密度」は、実に東京の100分の1以下なのです。これはすなわち、リウマチの患者さんが専門医を受診しようとおもったら、平均で東京の10倍以上の距離を移動しなければ受診できないことをあらわします。

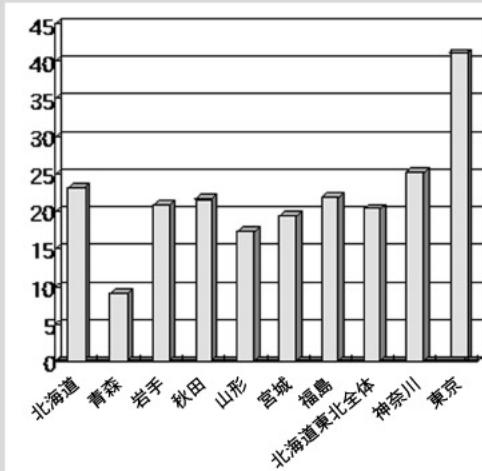
支部の学術集会のときも会員の移動距離が長いのが特徴です。仙台や札幌に在住ならまだ何とかありますが、北海道釧路市の会員の先生が山形市でおこなわれる支部学術集会に出席しようとする、移動は一日がかりとなります。

このように不利な条件の多い当支部ですが、北海道東北地区のリウマチ学発展のためにできるだけ努力をしてく所存ですので、なにとぞよろしくご願ひ申し上げます。

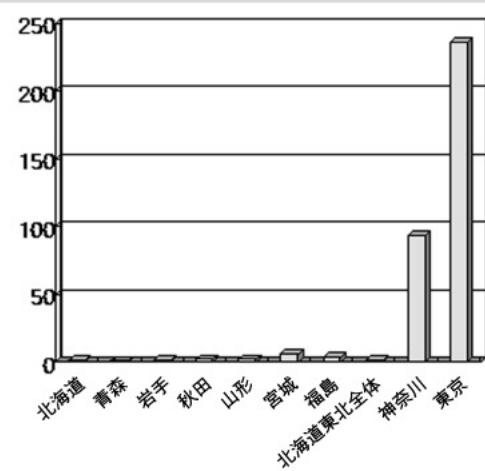
(文責：北海道・東北支部事務局長 渥美達也)



▲小池隆夫支部長と大澤知子事務員



人口100万人あたりのリウマチ専門医



面積1,000平方キロメートルあたりのリウマチ専門医

(中) 日本リウマチ学会中国・四国支部

長年中国・四国支部の活動・運営にご尽力された山本純己先生の後任として、平成17年4月から支部長を担当させて頂いております。副支部長には鳥取大学整形外科豊島良太教授が就任し、また多くの若手評議員が運営委員会に加わり、新たな支部運営体制がスタートしました。現在、中国・四国地区の日本リウマチ学会会員は982名、評議員は90名であります。さらなる発展のため、会員の相互交流、学術活動の奨励、リウマチ指導医の増員に力を注ぐ所存です。第16回中国・四国支部学術集会前日の10月21日初めての新運営委員会を開催し、支部活動の活性化について熱心に討論して頂きました。若い会員の支部学術集会の参加と発表を促すため若手奨励賞を設ける、教育研修施設の少ない県では基幹病院に認定申請を呼びかける、地域内の教育研修会や学術集会の予定を評議員に周知徹底するなど、多くの方策が提案されました。可能なものから早急に実現したいと思っております。本年の中国・四国支部学術集会（会長：徳島大学大学院分子制御内科学谷憲治助教授）は10月21日（土）徳島大学医学部臨床講堂にて開催されますが、翌日の支部会生涯教育研修会では中国・四国地区で活躍する若手評議員の先生方に講演をお願いする予定です。ご協力のほど宜しくお願いいたします。

（文責：中国・四国支部代表 槇野博史）

第16回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会は、平成17年10月22日（土）高知大学医学部橋本浩三教授の会長の下に高知市高知城ホールにおいて開催されました。高知県は支部内で最も南に位置し、県内での開催が初めてで心配もありましたが、大変光栄なことに総数200人以上の先生方のご参加を頂き、活発な集会にさせて頂きました。

学術集会は特別講演2題とランチョンセミナー2題と応募頂きました一般演題47題で構成し、終日活発なご討議を頂きました。特別講演は、近年、関節リウマチを含め膠原病の治療戦略が生物学的製剤や新しい免疫抑制剤の導入により大きく変化したことを受け、田中良哉先生（産業医科大学医学部第一内科学）に「リウマチ・膠原病治療の新展開—生物学的製剤によりブレイクスルーできるか—」と題して関節リウマチやSLEになどの膠原病に対する生物学的製剤の使用についてご講演頂き、吉田俊治先生（藤田保健衛生大学リ

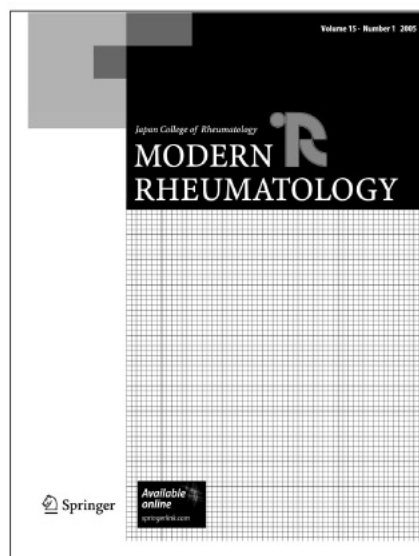
ウマチ感染症内科学）に「膠原病における免疫抑制剤の治療戦略」と題して免疫抑制剤の使い方などについてご講演頂きました。また、ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインが2004年に発表され、膠原病やその治療と密接に関係している骨粗鬆症について三木隆己先生（大阪市立大学大学院医学研究科老年内科学）に「骨代謝マーカーにおける最近の動向」と題して骨質の評価に有用な骨代謝マーカーについてランチョンセミナーでご講演頂きました。何れも大変解りやすいご講演内容でしたので地方会に所属している会員先生方の日々の診療や研究に役立つご講演であったと信じております。インターネットが普及し多くの情報を何処でも手に入れられる時代を迎えた今日でも、日常臨床で難治性疾患と向き合っておられる会員の先生方にとっては、ご専門の先生方が集い、直接討論できる場を持つことは大きな魅力やメリットでありますので、今後も支部学術集会が会員の皆様により有意義な会であり続けてほしいと思っています。

（文責：高知大学医学部病態情報診断学 公文義雄）



▲第16回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会会長
高知大学医学部 橋本浩三教授

(中)日本リウマチ学会の英文誌 (Modern Rheumatology) 投稿・発行規定 (2006年1月11日改訂)



(2005年15-1号からのMR新表紙)

■目的と内容

Modern Rheumatologyはリウマチ学および病理学、生理学、臨床免疫学、微生物学、生化学、実験動物学、薬理学等の関連分野におけるオリジナル論文を英文で掲載する。

症例報告および広く読者に関心を持たれるテーマに関する綜説も受け付ける。また、内容が独創的かつ明快で、科学的価値の高い小論文も掲載を考慮する。

LetterはModern Rheumatologyの既掲載論文およびリウマチ学、有限責任中間法人日本リウマチ学会に関する事項に対するコメントに限る。速報は症例または研究上の知見に関するごく短い報告とし、抄録は付けない。

その他の記事も編集委員会の判断により掲載する。

論文は本学会の会員を問わず受け付ける。

年6号発行する。原稿は電子メールで、常時受け付ける。

■投稿条件

著者は、提出論文の内容のいかなる部分も未出版であること(ただし、抄録の形式で、または出版物になった講義、解説記事、学位論文の一部は可とする)、また、他の出版物への掲載予定のないことを誓約しなければならない。他の著作物からの直接引用や図表を含めざるをえない場合には、それらの著者と著作権保持者からの英文での使用許可を提出論文に添付する。

提出論文が査読後受理された場合、その著作権を有限責任中間法人日本リウマチ学会に譲渡すること、また論文あるいはその一部が言語の如何を問わず、著作権保持者の許可なく他の出版物に掲載されないことを誓約する。

ヒトを対象とした人体調査は、投稿者の所属機関または地域の倫理審査委員会が人体実験について定める倫理規範、もしくはヘルシンキ宣言(1964年採択)とその改訂条項(1975年改正、2000年修正)の精神を遵守する。また全ての患者に対し、インフォームド・コンセントを得ること、プライバシーの保護などに関する倫理的問題に十分配慮する。

動物実験における動物の取り扱いにおいても、投稿者の所属機関の倫理審査委員会が定める倫理規範、もしくは米国学術研究会議National Research Council(NRC)の規範「No. 86-23」(National Institute of Health 出版物)に従う。利益相反 (Conflict of Interests) の恐れがある、いかなる金銭的・或いは個人的関係について情報公開する必要があり、論文投稿における謝辞の項目には、そのような関係をすべて宣誓する。

論文の著者及び共著者は、投稿原稿が他で一切発表されていないことを誓約する文書を、全員署名の上、提出する。

■原稿形式

原稿は英文で記述し、抄録、本文、謝辞、文献、図説、表を含めA4サイズにダブルスペースで作成する。各パートは改頁し、前記の順に原稿ナンバーをつける。

英文は英語を母国語とする研究者が読んで正確に理解できるものであること。校閲者から英文の改善を求められた場合は、英語を母国語とし関連分野に詳しい者の校閲を受けること。この場合、編集委員会が斡旋する人の校閲を受けることが出来る。ただし、その費用は著者負担とする。

標準的な略語や単位を使用する。略語は初出の際にスペルアウトする。略語は標題では使用しない。薬品や化学物質は一般名を使用する。

著者は、本文、図表を含む論文原稿を電子メールに添付して、下記Eメールアドレスへ電子投稿する。投稿論文の原稿は返却しない。

Email: MR@ryumachi-jp.com

■原稿枚数

原著および綜説は、30枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む) 症例は、文献を含め20枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む) 図表は1点につき原稿1枚と換算する。

刷り上りが16ページを越えた場合には、その費用を請求される。Letterおよび速報は文献を含め4枚以内とし、抄録は付さない。

■表紙

表紙には、論文の種類(原著、症例等)、標題、全著者名、著者の所属とその住所、本文枚数、図説、図表の点数を記載する。さらに、5語までのキーワード(アルファベット順に)、連絡先となる著者名や住所・電話番号・ファックス番号・e-mailアドレス、必要があれば編集委員会へのコメントを記載する。

■抄録

原著は、目的、方法、結果、結論を200語以内で簡潔に記述する。

症例、綜説は各々75語、200語以内とする。

抄録中に小見出しは付けない。

■本文

実験的な内容の論文については、Introduction, Materials and Methods, Results, Discussionの構成で記述する。

■表

表は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各表は個々に改頁し、簡潔な題をつける。表中で使われている主要な略語を表の脚注で説明する。

■図

図は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各図には簡潔な図説を付ける。図説は本文の後に、図とは別に一括して記載する。

図はコラムの幅 (8.6cm) または印刷領域 (17.6×23.6cm) に合わせた大きさにする。組み合わせの図は、印刷領域を越えない範囲 (図説も考慮する) でまとめる。その際図番号を明記する。

カラー図は受け付けるが、著者はその費用を請求される (カラーページ1ページ目¥60,000, 2ページ目以降は1ページ当たり¥30,000)。カラー図はカラー、白黒いずれでの印刷を希望するか表紙に記載する。

図や写真の電子画像送信も論文のオンライン審査用に受け付けるが、著者は掲載通知を受理後、各号に掲載されている出版社の電子投稿のスペックに従い、出版用の電子画像を提出する。

〈線画〉

最終的に印刷を希望する大きさで鮮明であること。文字は明瞭で読みやすくする。

〈ハーフトーン図 (写真を含む) 〉

適切なコントラストで、的確な角度と最終的な印刷サイズで提出する。

光学顕微鏡写真の場合、図説中に染色法を示す。電子顕微鏡写真は寸法を示すために写真中にバーを入れ、図説中でそのバーの数値と単位を示す。

■文献

文献はアルファベット順ではなく、本文中での出現順に番号付ける。文献データは、著者の責任をもって、正確に記載する。

私信や未出版データは文献リストに含めるべきではないが、本文中に括弧付きで引用することができる。(例: A, Aoki 1999 personal communication) それが他者のものである場合は、直接の引用を認める著者の署名入り手紙を提出する。

他誌で掲載受理されていて未出版の論文は文献リストに含めることはできるが、括弧付きで "In press" と記載する。

文献リストには、引用該当ページおよび最初の6人までの著者名を、それを超える場合は "et al" を付す。雑誌名は Index Medicus に準じる。日本語で書かれた論文は、(雑誌) 2. の形式による。文献は本文中では上付き文字で引用する；

[例] Ames et al. 1 reported...

〈雑誌〉

1. Ames PRJ, Lupoli S, Alves J, Atsumi T, Edwards C, Iannaccone L, et al. The coagulation/fibrinolysis balance in systemic sclerosis: evidence for hematological stress syndrome. *Br J Rheumatol* 1997; 36: 1045 - 50.

2. Kamihara S. Case of Sjogren syndrome associated with idiopathic monoclonal IgA rheumatoid factor and pyroglobulinemia (in Japanese). *Rinsho Ketsueki*. In press.

〈単行本〉

3. Cassidy JT. Systemic lupus erythematosus, juvenile dermatomyositis, scleroderma, and vasculitis. In: Kelly WN, Harris ED Jr, Ruddy S, Sledge CB, editors. *Textbook of rheumatology*. 5th ed. Philadelphia: WB Saunders; 1997. p. 1241-64.

〈Proceeding〉

4. Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In: Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. *MEDINFO 92. Proceedings of the 7th World Congress on Medical Informatics*; 1992 Sep 6-10; Geneva, Switzerland. Amsterdam: North-Holland; 1992. p. 1561-5.

■別刷

著者には別刷30部を無料で提供する。それ以上の部数が必要な場合には、100部までは50部単位で、100部以上は100部単位で注文を受け付ける。

■論文審査

提出された論文は、少なくとも2人のレフリーと編集委員により審査され、必要な場合には言語および内容について訂正を求める。編集委員は論文の採否および掲載順序を決定する。

論文の訂正と再提出を求められた場合、2ヶ月以内の再投稿が義務づけられる。著者がそれに応じない場合は、論文掲載を辞退したものとみなされる。

原稿送付先および問い合わせ先

〒105 - 0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番24
第1オカモトヤビル9階

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

Modern Rheumatology編集委員会

Tel 03-5251-5353 Fax03-5251-5354

Email: MR@ryumachi-jp.com

URL: <http://www.ryumachi-jp.com/publish/mr.html>

MR編集委員長からのお願い

有限責任中間法人日本リウマチ学会の英文誌 *Modern Rheumatology* (MR) は、インパクトファクターをつけることを目指しています。紙媒体ではなかなか引用されにくい状況を考慮いたしまして、過去5年間に掲載されたMRへの論文abstractsを全て学会ホームページに掲載いたしました。

学会ホームページのトップページにある「会員のページ」をクリックして、「会員のページ (会員専用ページ)」に入ります。「学会誌・刊行物」をクリックしますと、「*Modern Rheumatology*」のバックナンバーの一覧と各年のkey-words indexとauthors index一覧をご覧いただけますので、論文を書く際は出来る限り、*Modern Rheumatology*から引用していただくよう会員の皆様へお願い申し上げます。

Modern Rheumatology 編集委員長 三森経世



骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

ボナロン[®]錠 5mg

<アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠>

劇薬・指定医薬品・処方せん医薬品(注意：医師等の処方せんにより使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

商標 #702/Bonalon[®] is the registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, NJ, USA.

製造販売元

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

資料請求先：学術情報部
〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1

BNT027 (KK) 0504改4 2005年4月作成

Santen



Together

抗リウマチ剤

薬価基準収載

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

メトレート錠2mg

Metolate® tablets 2mg

メトトレキサート錠

■【効能・効果】、【用法・用量】、【警告、禁忌を含む使用上の注意】等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

薬価基準収載

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

リマチル錠100mg

Rimatil® tablets 100mg

ブシラミン100mg錠

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

リマチル錠50mg

Rimatil® tablets 50mg

ブシラミン50mg錠

■【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意】等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

抗リウマチ剤

薬価基準収載

指定医薬品、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

アザルフィジンEN錠

Azulfidine® EN tablets

サラソスルファピリジン500mg腸溶錠

指定医薬品、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

アザルフィジンEN錠250mg

Azulfidine® EN tablets 250mg

サラソスルファピリジン250mg腸溶錠

■【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌を含む使用上の注意】等については、添付文書をご参照下さい。

発売
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

製造販売
Pfizer ファイザー株式会社
東京都渋谷区代々木3-22-7

2005年6月作成
3MTL05FA4

エーザイは、『運動器の10年』活動のパートナーとして運動を推進してまいります。



エーザイ販売の主な

運動器疾患に対する治療薬・診断薬

薬価基準収載

検体検査実施料収載

骨粗鬆症治療用ビタミンK₂剤

グラケー[®]カプセル 15mg

〈メナテレノン製剤〉

創薬・指定医薬品

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

骨粗鬆症治療剤

アクトネル[®]錠 2.5mg

〈リセドロン酸ナトリウム水和物錠〉

末梢性神経障害治療剤

メチコバル[®]錠 250μg 錠 500μg 細粒

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

メチコバル[®]注射液 500μg

〈メコパラミン製剤〉

指定医薬品

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

筋緊張改善剤

ミオナール[®]錠 50mg 顆粒 10%

〈塩酸エベリゾン製剤〉

創薬・指定医薬品

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

組織活性型鎮痛・抗炎症剤

インフリー[®]カプセル 100mg インフリー[®]Sカプセル 200mg

〈インドメタシン ファルネシル製剤〉

指定医薬品

経皮吸収型鎮痛消炎剤

フェルビナクP「EMEC」[※]

血清中抗ガラクトース欠損IgG抗体測定用医薬品

ピコル[®]CA・RF[※]

〈電気化学発光免疫測定法〉

※ 販売提携品

● 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

hve
ヒューマン・ヘルスケア企業



エーザイ株式会社

〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室

☎0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

SE0510-4 2005年10月作成

薬価基準収載

経皮複合消炎剤

モビラート[®]軟膏

Mobilat[®]

Mobilat



● 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売

maruho

〔資料請求先〕

マルホ株式会社

大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

(2004.6作成)

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00542000

間質性肺炎に特異性の高い 血清マーカー

KL-6

血清中シアル化糖鎖抗原KL-6測定用医薬品

ピコルミ[®] KL-6 Picolumi[®] KL-6

〈電気化学発光免疫測定法〉




特性

1. 間質性肺炎に特異性が高く、他疾患との鑑別診断に優れます。
2. 活動性の間質性肺炎では、非活動性に比べ高値に分布します。
3. 間質性肺炎の症状改善、悪化に伴い有意に測定値が変動します。
4. ピコルミKL-6は自動測定が可能であり、1回の測定で広い測定レンジ(51~10200U/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
5. ピコルミKL-6は、エイテストKL-6(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

製造販売元  **三光純薬株式会社**
東京都千代田区岩本町1-10-6

販売提携  **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先：三光純薬株式会社 商品情報係 ☎03-3863-3271 / エーザイ株式会社 お客様ホットライン室 ☎0120-419-497

2005年8月作成
KL0508-1



持続性抗炎症・鎮痛剤 《ナブメトン錠》

指定医薬品
レリフエン[®]錠
RELIFEN RELIFEN[®]400 薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元
株式会社 三和化学研究所
SKK 本社/名古屋市東区東外堀町35番地 平461-8631
●ホームページ <http://www.skj-net.com/>
提携 **グラクソ・スミスクライン株式会社**

資料請求先・問い合わせ先
—————
コンタクトセンター
☎0120-19-8130
受付時間:月～金 9:00～17:00(夜日は除く)

2003年7月作成

 **Abbott**
A Promise for Life

アボット ジャパン株式会社
医薬品事業部本社 大阪市中央区城見2-2-53

2005年11月作製

●巻頭言

第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会

第15回国際リウマチシンポジウム開催に当たって……江口 勝美… 1

●第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会

第15回国際リウマチシンポジウム……………2~22

開催概要/参加者へのお知らせ/プログラム委員会/アニュアルコース
レクチャー/JCR大会日程表/各会場案内/会場周辺マップ/交通のご
案内/宿泊案内/口演発表について/ポスター発表について

●創立50周年記念企画

歴代学会長及び名誉会員の声と提言/初代日本人SEAPAL(現APLAR)

会長より……………24~25

創立50周年記念特別展示のご案内……………26

●INFORMATION……………28~29

2005年度日本リウマチ学会第18次「リウマチ指導医」認定者/

2005年度日本リウマチ学会第19次「リウマチ専門医」認定者/

2006年度日本リウマチ学会教育施設募集および継続申請のお知らせ

●各支部だより 北海道・東北支部/中部・四国支部……………30~31

●英文学会誌 *Modern Rheumatology (MR)* 投稿・発行規定……………32~33

MR編集委員長からのお願い 三森 経世

●目次・奥付……………40

**(中)日本リウマチ学会ホームページ
「会員専用ページ」のご案内**学会ホームページの「会員専用ページ」よりニュースレターのバックナンバー
をはじめ会員向けの情報をご覧いただけます。(正会員のみ)なお、初めて「会員専用ページ」にログインするには、まずパスワードの登録
が必要です。ホームページの記述に従いパスワードの登録を行なってください。URL: <http://www.ryumachi-jp.com/>

- 情報化委員会 担当理事：澤井高志
(順不同) ニュースレター小委員長：天野宏一/委員：諏訪 昭・田中真希・中島亜矢子

ニュースレター 2006年・第9号 発行日2006年3月15日

発行者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354

E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL <http://www.ryumachi-jp.com>

デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5
TEL.03-5215-6560 FAX.03-5215-6560 E-mail creat-m2@sea.plala.or.jp

印刷社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4
TEL.03-3591-1025 FAX.03-3591-0846

全例調査(承認条件)

新発売



完全ヒト型可溶性TNF α /LT α レセプター製剤 薬価基準収載

エンブレル[®]皮下注用25mg

ENBREL[®] 25mg for S.C. Injection エタネルセプト(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品^{注)} 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

注意 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Wyeth

製造販売元
ワイズ株式会社
〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目10番3号
<http://www.wyeth.jp/>

販売
武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

資料請求先：ワイズ株式会社 ワイスくすりの情報室 〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目10番3号

2005年5月作成

REMICADE



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード®点滴静注用100

REMICADE® for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)

田辺製薬株式会社

〒541-8505 大阪市中央区道修町3丁目2番10号
<http://www.tanabe.co.jp/>



製造元

Centocor

マルバーン/ペンシルバニア州(アメリカ)

2005年9月作成